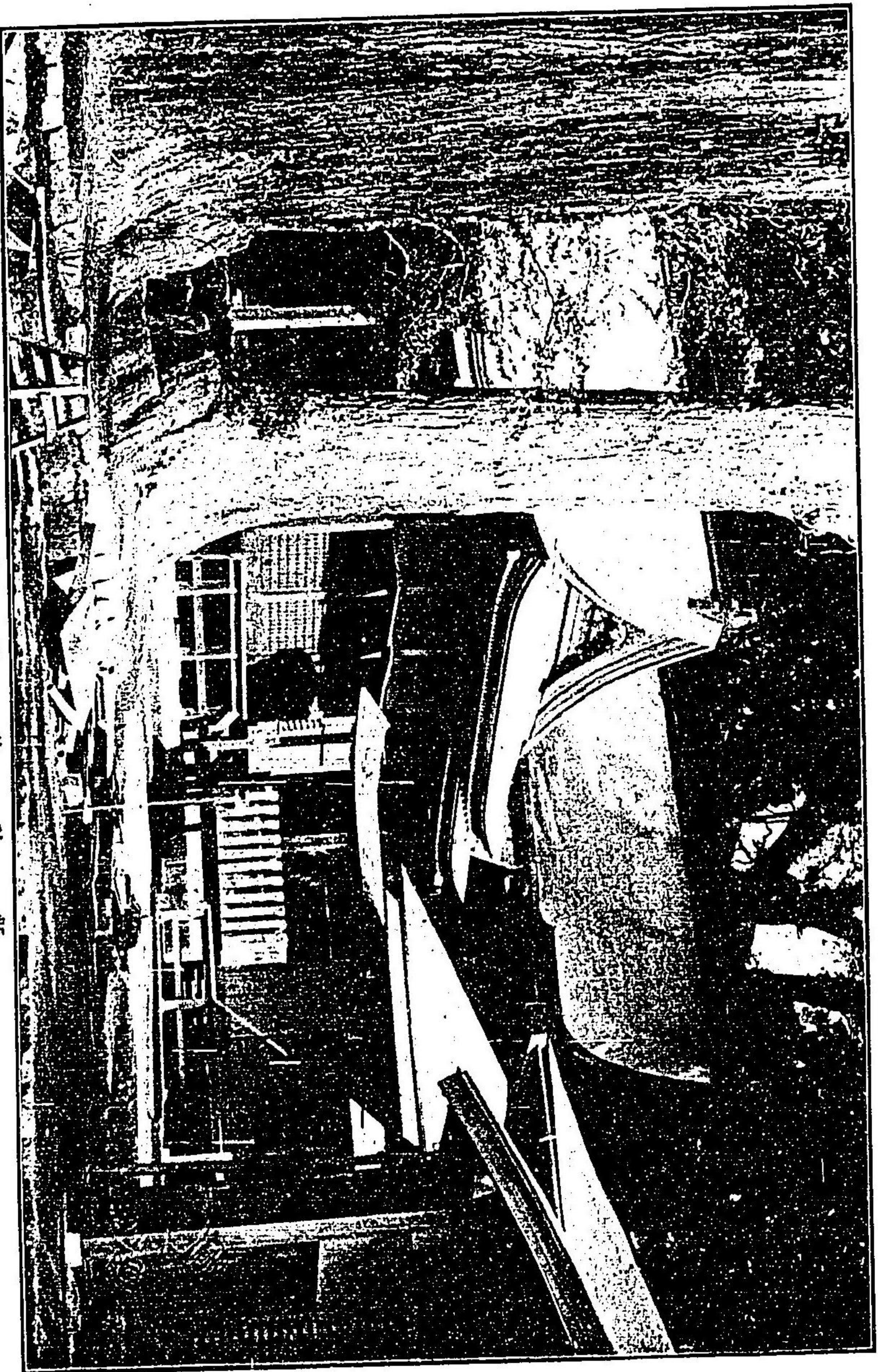


狹野神社ニハ御使ヲ差遣ハサレ竝ニ軍馬補充部高原支部ヲ御視察セシメラルヘキ御内議アルヲ聞キ
 狹野神社竝ニ軍馬補充部高原支部ニ通知シ次テ縣吏ヲ派シテ實地ノ視察竝ニ打合セヲナシ高岡、紙
 屋ノ二箇所ニ御休憩所ヲ小林村ニ御宿舎ヲ定メタリ

午前七時三十分東宮侍從高辻宜麿ハ御使トシテ御旅館御出門小林警察署長先驅
 西諸縣郡長米良宇三郎、宮崎縣技師平野篤夫等隨從シ高岡村ニテ暫時御休憩紙
 屋ニテ御晝餐午後四時西諸縣郡小林村廣櫻館ニ御安著アリタリ此日御通路ニハ
 各村共敷砂ヲナシ小林村ニ於テハ奉迎門ヲ設ケ地方有志者、在郷軍人、小學校
 兒童ハ沿道ニ整列奉迎セリ

二日午前九時御出發前日ノ列順ヲ以テ午前十一時高原村縣社狹野神社ニ御著境
 内入口ニ於テ御下乗社掌ノ御先導ニ依リ社務所ニ入り御少憩セララル
 小林高原間ノ御通路ニハ敷砂ヲナシ縁門ヲ設ケ奉迎頗ル盛ナリ
 社務所御休憩中左ノ幣饌料ヲ社司ニ授ケラレ社司之ヲ内殿ノ案上ニ奉奠ス
 一幣 帛料



一 神饌料

次テ社掌御先導神樂殿右側ニ設ケタル祓所ニ於テ神職二名大麻御鹽ヲ奉仕シ拜殿前ニ於テ御手水ノ儀アリ幣殿設ケノ席ニ御著隨員ハ拜殿前庭ニ候ス社司案上ノ御玉串ヲ執リ之ヲ進ム御拜ノ閉諸員敬禮御拜畢リテ御玉串ヲ社司ニ授ケラル社司之ヲ捧ケ内殿前ノ案上ニ奉ル終テ本座ニ復ス御退下社司御先導社務所ニ入ラル

御少憩ノ後神武天皇御降誕地ノ稱アル王子原ニ臨マレ再ヒ社務所ニ御歸著御晝餐ノ後午後一時御出發列順前ノ如クニシテ軍馬補充部高原支部へ向ハル同一時三十分御著同部員ハ一同玄關前ニ奉迎シ同支部長代理御先導御休憩所ニ於テ情況ヲ捧呈シ御少憩ノ後構内各厩舎、農具舎竝ニ馬匹運動ノ情況等詳細御視察ヲ遂ケラレ同二時二十分御出發小林村ニ向ハレ同三時三十分御著アリタリ

三日午前七時小林村御出發前日ノ列順ニ依リテ途中紙屋ニ御少憩高岡ニ於テ御

晝餐午後三時三十分宮崎町御旅館ニ御歸著アリタリ
遠隔地ノ學校ニ於ケル奉迎

縣内公私立各學校中年少兒童又ハ距離遠隔ノ學校職員生徒兒童中ニハ奉迎送ノタメ來宮スルコト能
ハサル者モ尠カラサルカ爲メ此等ハ十一月一日ヲ期シ各其學校ニ參集シ儀式ヲ舉ケ敬虔ノ意ヲ表シ
タリ

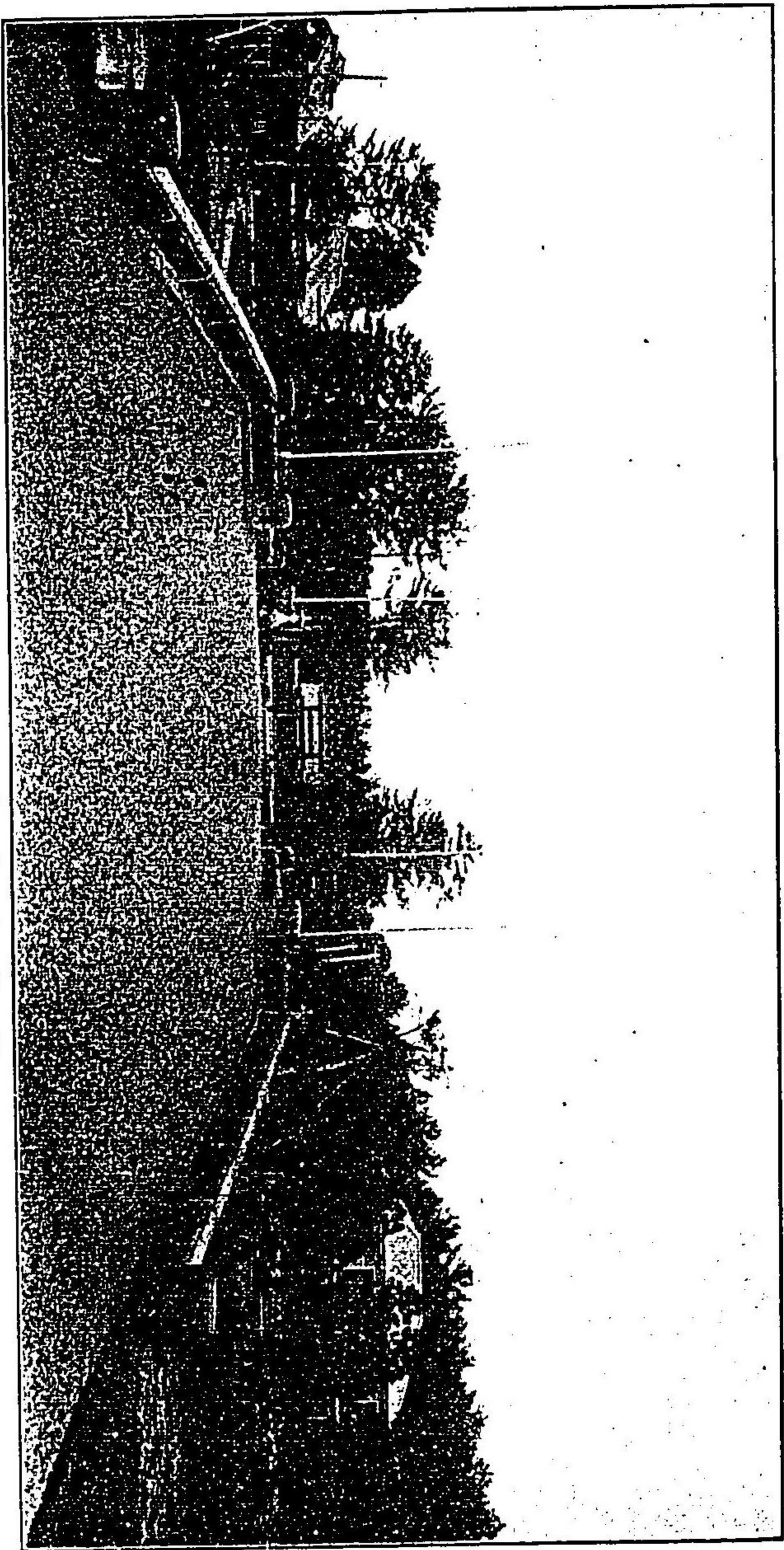
餘 興

午後七時御旅館對岸ニ於テ電燈裝飾ヲナシ煙火及仕掛花火ヲ揚ケ橘橋上ノ觀覽者悉ク萬歲ヲ歡呼シ
山嶽爲メニ撼クノ概アリ

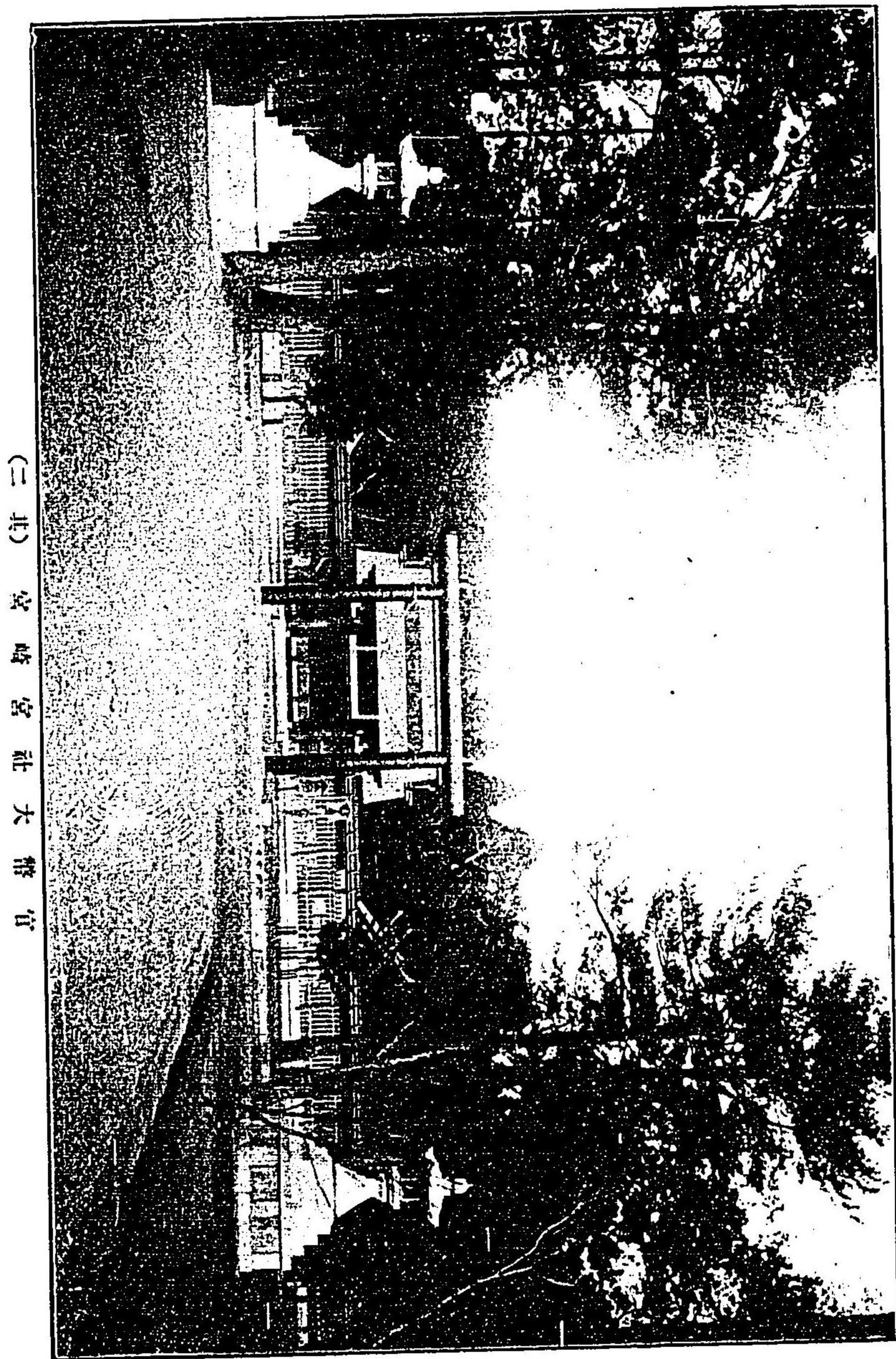
十一月二日

宮 崎 宮

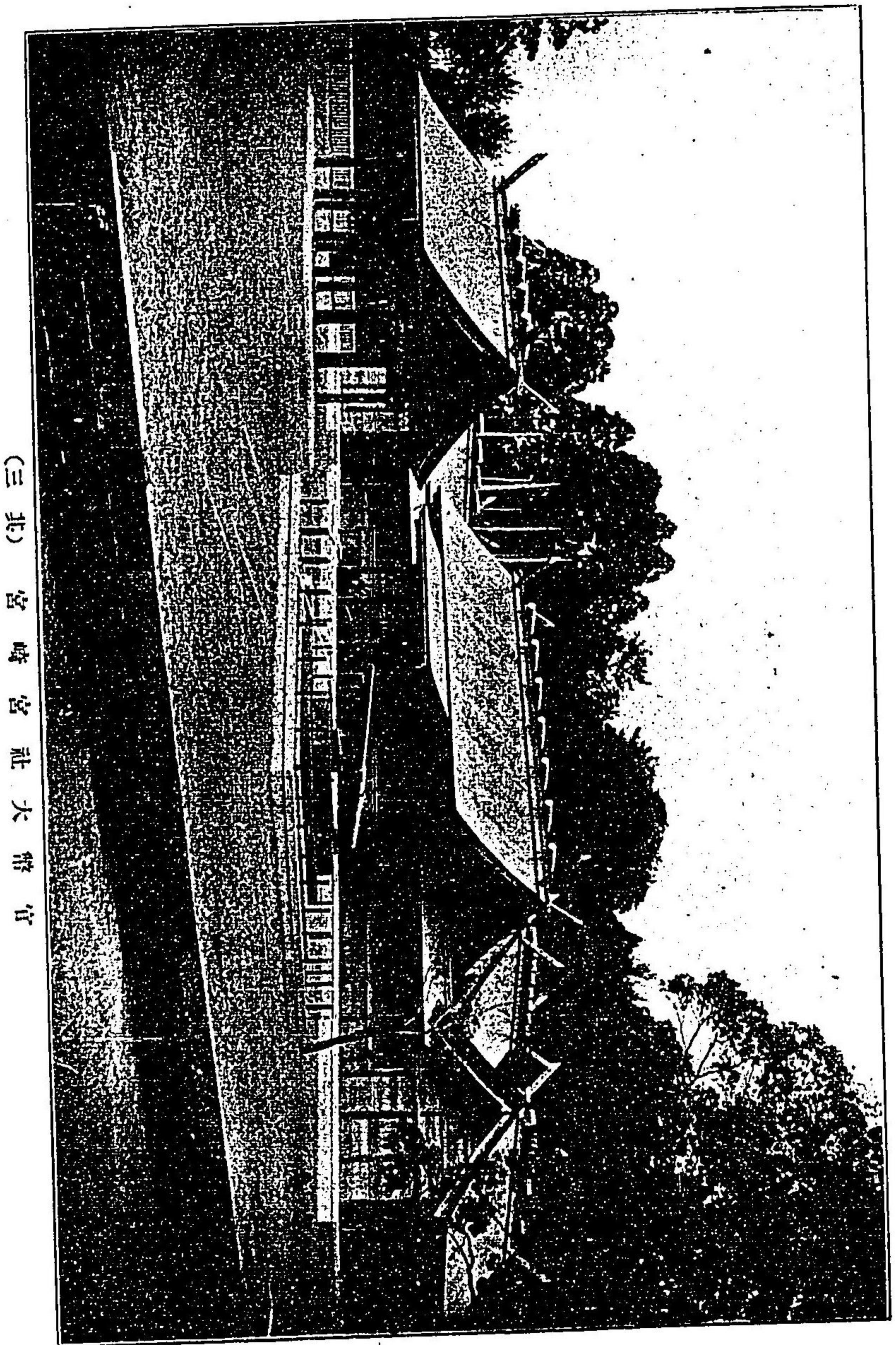
午前九時御旅館御出門官幣大社宮崎宮御參拜ノ途ニ就カセラル此日稍曇リタ
レトモ氣澄ミテ西風徐ロニ吹キ遠山近水相依テ本日ノ盛儀ヲ祝スルモノ、如シ
御道筋ハ御旅館ヨリ小島町ヲ右ニ旭通ヨリ本町ニ縣廳門前ヲ過キ橘通ヨリ牛圓



(一其) 宮崎宮幣大社宮

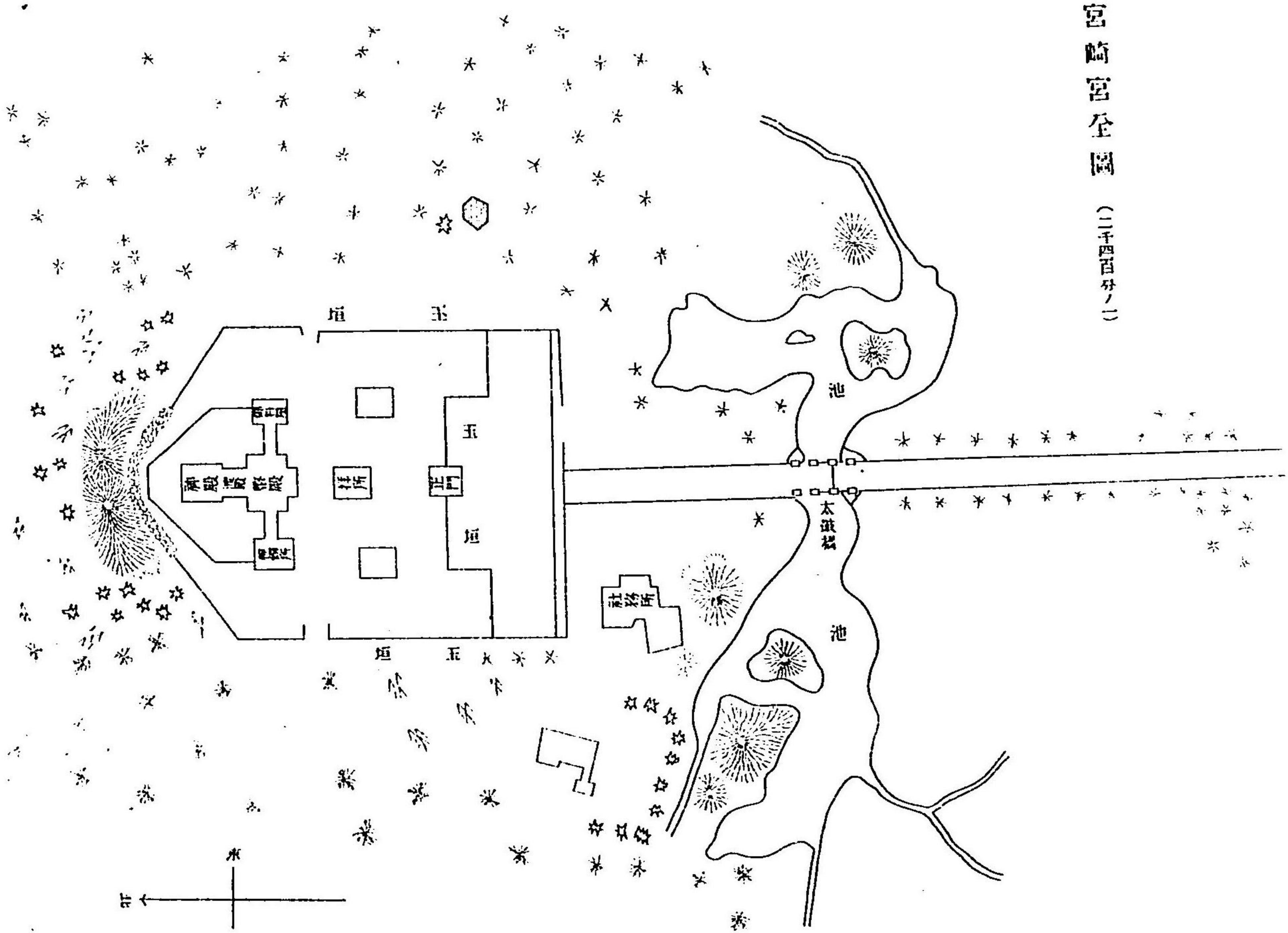


(二其) 安崎宮社大幣官

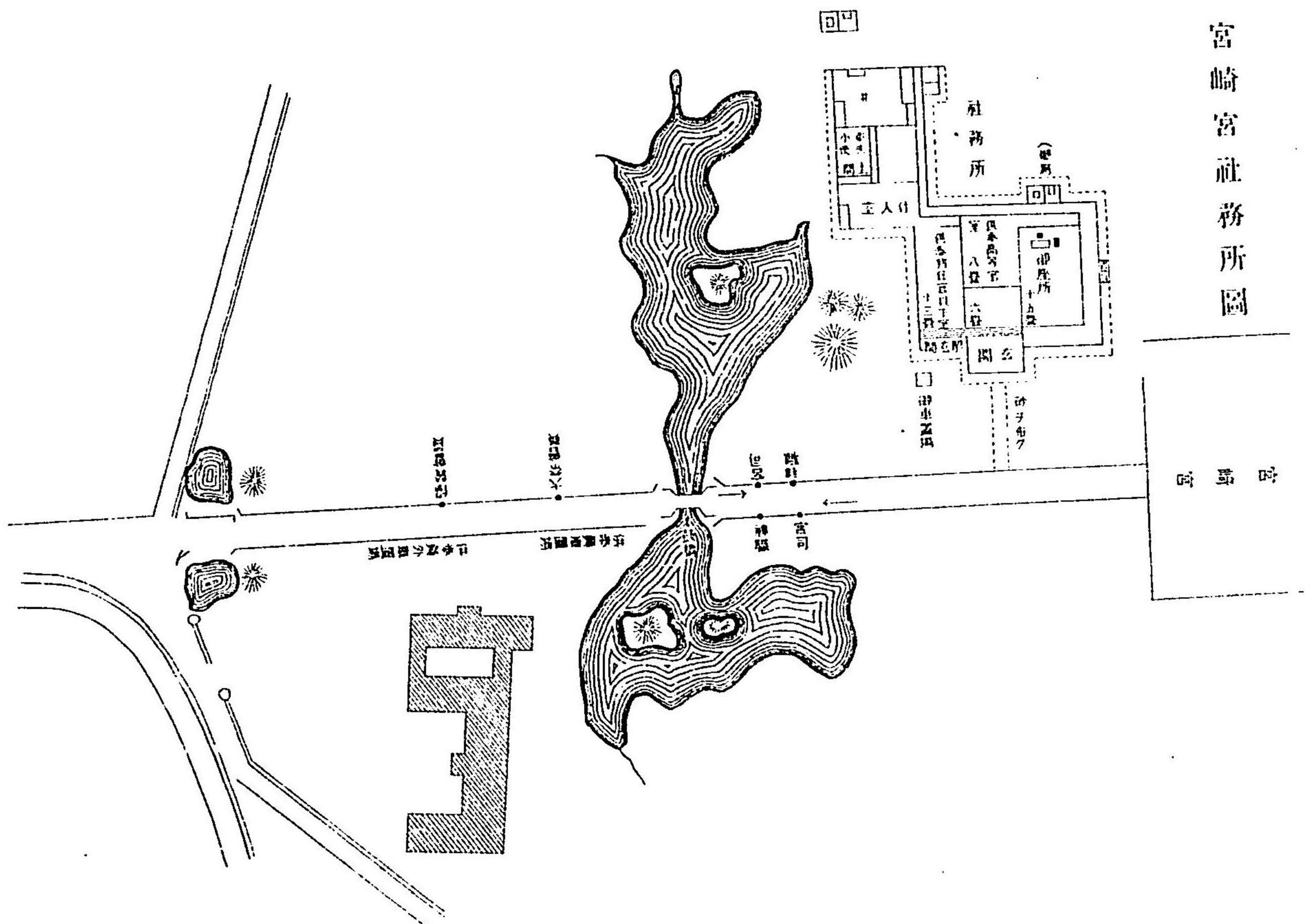


(三北) 宮崎宮社大幣官

宮崎宮全圖 (二千四百分の一)



宮崎宮社務所圖



時 時 時

ニ同九時二十分御著アリ供奉員ハ石橋前ニテ下乗ス御車石橋ヲ渡ラセラル、ヤ
宮司以下ノ神職ハ一齊ニ正笏奉拜敬禮ヲ爲ス此ヨリ宮司青木陳實御先導社務所
前ニ至リテ御下乘遊ハサル社務所玄關前南側ニハ神武天皇御降誕大祭會長伯爵
島津忠亮奉迎シ此ヨリ社務所内ナル御座所マテ御先導申上ケ供奉員亦皆所定ノ
席ニ著ス茲ニ於テ宮司ハ幣帛料神饌料ヲ受ケ神殿ニ到リ禰宜ト共ニ正殿ヲ開扉
シ之ヲ案上ニ奉奠シ御玉串ノ薦案ヲ備ヘテ退キ幣殿南階ノ最下段ニ至リ西方ニ
寄リテ段上ニ蹲踞ス次ニ主典二名正門内修祓ノ處ニ北上西面シ列立ス是ニ於
テ 殿下ハ御座所ヨリ禰宜御先導供奉官以下扈從シ一ノ鳥居ヲ經テ正門ニ入ラ
セラル主典祓串ヲ捧ケテ修祓ヲ爲シ御鹽ヲ取リテ清メ畢テ各復列蹲踞ス
殿下進ンテ拜所ニ入ラセ給ヒ東側ニ於テ御手水ノ儀アリ侍從之ヲ奉仕ス更ニ進
ンテ幣殿ノ南階ニ於テ御靴ヲ脱シ給フ内舎人之ヲ奉仕ス此閉宮司ハ蹲踞ノ儘正
笏低首シ供奉ノ諸員ハ所定ノ位置ニ正立ス既ニシテ 殿下階ニ昇リ給ヘハ宮司

起テ御先導東宮武官長扈從ス渡殿ヲ過キ御正殿玉階ノ上中央ニ設ケシ御濱床ノ

一〇六

上ニ御著座遊ハサレ宮司ハ同所西方高欄ニ沿フテ跪居シ武官長ハ同シク東方高欄ニ沿フテ祇候ス 殿下ハ御玉串ヲ執リ給ヒテ恭シク御拜アリ此際武官長及階下ニ正立ノ諸員皆最敬禮宮司ハ正笏シテ俯伏ス奉奠畢リテ御退下ノ際社殿ノ構造修飾ニ御目ヲ留メ給ヒシモノ、如ク拜シ奉レリ宮司御先導申上ケ幣殿南階ノ東方ニ到リ最下段ニ躊躇ス御著靴ノ際ハ正笏低首諸員皆敬禮ス是ヨリ禰宜御先導ニテ豫テ東方ニ設ケ置キシ箇所ニ台臨ヲ仰キ樟苗一株ノ御手植ヲ請ヒ奉リ畢ツテ正門ヲ經社務所ナル御座所ニ入ラセラル是ニ於テ島津伯爵ハ新築ノ宮崎宮御寫眞ヲ捧呈ス暫クアリテ大祭會役員會長伯爵島津忠亮、副會長田中直達、幹事長男爵高木兼寛、理事三橋得三ニ謁ヲ賜ヒ尙特別ノ思召ヲ以テ島津伯爵、高木男爵ニ各自羽二重一疋、田中直達ニ袴地一反ノ御下賜アリ宮司ハ正殿ヲ閉扉シ後レテ社務所ニ到レハ直ニ拜謁仰付ケラレ尙白斜子一反ヲ賜ヒ社務所ニ金若

干テ下賜セラル同九時五十分還啓仰出サレ高木男爵ノ御先導ニテ出テサセ給ヒ玄關前南側ニ列立セル理事以下役員奉拜者ニ御會釋ヲ賜ヒ是レヨリ宮司御先導石橋ノ下ニ至リ東側ニ寄リテ馨柝シ職員ト共ニ一同正笏低首シテ奉送ス 殿下ハ供奉員以下ヲ隨ヘサセラレ第二鳥居ヲ出テ左ヘ新道御通過宮崎縣馬匹共進會ヘ成ラセ給フ時ニ午前十時ナリ

神武天皇御降誕大祭會ハ宮崎宮カ古史ニ所謂高千穗宮ニシテ神武天皇ノ統ヲ垂レ業ヲ肇メ給ヒタル古帝都タルト狹野神社カ天皇御降誕ノ靈域ナルトハ猶未タ洽ク世ニ知悉セラレサルヲ以テ昭代ノ一恨事トシ其原廟ヲ修メ以テ崇敬ノ禮ヲ盡シ之ヲ萬世ニ傳フルノ目的ヲ以テ朝野有志者ノ首唱ニヨリテ明治三十一年創立セラレタルモノニシテ發起人ノ互選ヲ以テ評議員ヲ舉ケ評議員ハ理事十名ヲ選舉シ其内總理、會長、副會長、幹事長各一名ヲ專任シ別ニ監事ヲ置キ其施設ノ順序ヲ立テ臺灣總督府民政長官、北海道廳長官及各府縣知事並ニ各市郡區長ヘハ地方委員長又ハ地方委員副長ノ任ヲ囑託シ其他地方委員ヲ置キ地方有志者寄附金勸誘ニ關スル事務ノ取扱ヲ委託シタリ明治三十二年一月帝國議會ニ於テ建議シタル要ニ曰ク我カ國民タル者孰レカ 神武天皇ノ洪澤ニ浴セサルモノアラン

ヤ此舉タル國民齊シク協力シテ之レヲ經營シ以テ報恩ノ誠ヲ奉セサル可カラス政府モ亦監督獎勵シ

一〇八

テ其事業ヲ補助スヘシト是ヲ以テ政府ハ經費ヲ補助シテ其成ルヲ期シ一般ノ有志者ハ各自資金ヲ出シテ之レヲ贊助シ帝室ハ此ノ舉ヲ聞食サレ同三十八年十月中思召ヲ以テ内帑金ヲ交付シテ之レヲ贊ケ給ヘリ是ヨリ先キ同三十二年即チ御降誕後二千六百二十年ノ四月宮崎宮ニ於テ御降誕大祭會ヲ舉行シ工事ヲ起シ同時ニ狹野神社ニ於テモ祭典ヲ行ヘリ爾來工ヲ續ケ同四十年秋ニ至リ工事竣成ヲ告ケタリ神殿ハ三間四方ニシテ基礎稍高ク環ヲスニ高欄ヲ以テシ玉階ノ下ヨリ六間半ノ渡殿ヲ隔テテ幣殿アリ其廣サ四間ニ七間半アリ同シク環ヲスニ高欄ヲ以テス左右ニ分レテ各五間ノ渡廊ヲ隔テ其東西ノ兩端ニ各三間ニ四間ノ御料屋ト神饌所ノ兩殿アリ是ヨリ神殿ヲ中央ニ東西北ノ方面ヘ透開垣ヲ環ラス其長サ四十七間左右ニ腋門ヲ附シ以テ内殿ヲ形成セリ而シテ幣殿ノ階前ヨリ南六間半ヲ距ル庭上ニ三間ニ四間ノ拜所ヲ設ケ中ハ悉ク石疊ニシテ常ニ公衆ノ參拜スル所ト爲ス是ヨリ南ニ距ル九間ニシテ正門アリ高サ二十八尺左右ニ玉垣ヲ築ク其折レテ東西ノ方面ヨリ北方ヲ圍ミタル扉ハ總テ人造石ヲ以テス其長サ百八十間之レヲ本宮ノ外堀トシ東西ニ腋開ヲ設ケ鐵扉ヲ附ス而シテ構造ハ上古ヲ模倣シ神殿ヨリ諸殿舎及正門ニ至ルマテ千木堅魚木ヲ揚ケ屋上悉ク銅板ヲ以テ之ヲ葺キ又透開垣玉垣トモ皆銅屋根トナセリ且ツ桁檣垂木廣木舞ノ端角等外觀ヲナスモノ及千木堅魚木等悉ク

花菱ニ唐草ノ模様ヲ施シタル金銅ノ金物ヲ打チ要部ニハ菊ノ御紋章ヲ彫リ附ケタリ其建築用材ハ皆地方産ノ杉ニシテ孰レモ數百年ヲ經タル良材ナレハ堅牢ナルノミナラス其觀亦壯嚴ナリ而シテ拜所ノ左右ニハ陸海軍ヨリ奉獻アリシ明治三十七八年戰役ノ戰利砲若干ヲ陳列セリ神殿ノ御帳臺壁代竝ニ各殿舎又ハ正門ノ御幌及各種ノ神寶等ハ古實ニ基キ當職者ヲ選ヒテ之ヲ調製セシヲ以テ神聖ナル宮殿ニ供進シテ毫モ闕クル所ナシ社務所ノ構造モ意ヲ用ヒテ之ヲ爲シ事務室、應接室其他各室都テ廣キヲ主トシ總建坪五十六坪餘トシタリ加フルニ寶器及重要書類ヲ格護スル爲メ煉瓦造ノ倉庫一棟ヲ築キ之レニ附屬セリ鳥居ハ第一ヨリ第三ニ至ルマテ孰レモ巨材ヲ選ヒ之ヲ築キ永遠ニ保存センカ爲メ三基トモ地上ハ銅板ヲ以テ之ヲ覆ミ地下ハ鉛板ヲ卷キ且ツ其基礎ヲ固クシ以テ不朽ヲ計レリ敷地ハ當初二十三町二段七畝餘ト爲セシカ境内ノ道路ニ狹隘ナル所アルヲ以テ又五段餘歩ヲ購入シタレハ境内及附屬地ヲ合セ二十三町八段ニ上レリ而シテ樹木ハ從前存在ノ外新ニ杉、樟、扁柏竝ニ外國種樹木無慮三萬有餘本ヲ栽植シ且ツ其他良木ヲ移植シ以テ風致及保存ノ道ヲ計レリ本宮ノ保存費ハ當初政府ノ指定ニヨリ金四萬圓トナセシカ累年蓄積増殖シ現ニ有スル所ノ公債證書額面五萬九千八百圓ニ上レリ

狹野神社ハ從來地方有志者又ハ氏子等崇敬頗ル篤ク從テ維持ノ方法モ自ラ存セシカ本會ノ起ルニ及

と各自協力シテ遂ニ宮崎宮ノ舊社殿ヲ移シ之ヲ修築シ且ツ社務所ヲ建設シ以テ奉祀ノ道ヲ立ツ明治四十年五月其功ヲ竣(遷座式ヲ行ヘリ其壯觀舊時ノ比ニアラス加フルニ氏子等ノ共同ヲ以テ近傍ノ地所ヲ購入シ其社苑ヲ擴張シ著著企畫スル所アリ本會モ亦傍ラ之ニ力ヲ盡シ將來ノ憂ナキニ至レリ本會ニ於ケル明治四十年九月十五日調收支ノ現計ヲ左ニ掲グ

内

收入 總額

金十萬五千圓

金一萬五千圓

國庫補助金

金二十一萬五千五百五十六圓五十錢五厘

帝室御下賜金

一金二十三萬五千五百五十六圓五十錢五厘

寄附金及諸收入金

内

支出 總額

金四千六百二十四圓二錢六厘

金十六萬二千八百二十二錢三厘

御帳臺及各殿幌帳並神寶諸費

金五萬二千五百二十二圓三十八錢七厘

建築總費額

保存費

但公債額面五萬九千八百圓現在

金一萬七千六百十六圓二十三錢八厘

神苑費

金一萬二千五百五十九圓二十六錢四厘

明治三十二年四月
御降誕大祭諸費

金二萬九千七百四十七圓七十四錢

事務費

金五萬二千八百八十三圓二十五錢三厘

募集費及旅費其他報酬諸費

金七千八百八十五圓三十七錢四厘

未成事業費

明治四十年十月二十一日宮崎宮ニ於テ竣功奉告ノ大祭ヲ行ヒ延イテ十一月十日ニ至ルマテ日日祭典ヲ行ヒ狹野神社モ同期開奉告祭ヲ執行セリ 殿下ノ御參拜ハ實ニ此ノ閉ナリキ大祭會ハ茲ニ其目的ヲ達シタルヲ以テ明治四十年十二月三十一日一切ノ事物ヲ宮崎宮ヘ引繼グト同時ニ解散セリ

宮崎競馬場並宮崎縣馬匹共進會

競馬場正門前ニハ理事一同奉迎シ場内御座所昇降口ノ前面ニハ總裁島津伯爵奉迎シ御座ニ著カセ給フヲ待チテ直ニ競馬ヲ舉行セリ

場内ニテハ競馬ノ外御慰ミ物トシテ各村ヨリ繰リ出シタル踊數組ノ準備アリタルヲ以テ第一競馬幼

駒競走一組ヲ乗リ次ニ白太鼓踊及棒踊敷組ヲ演シ第二競馬壯馬ノ競走一組次ニ辨慶踊次ニ第二競馬壯馬ノ競走一組ヲ乗レリ内第三競馬六頭ハ孰レモ駿逸ノ尤物ニシテ其激甚ナル競走ハ觀者ヲシテ掌裏汗ヲ握ラシメタリ競馬ノ番組左ノ如シ

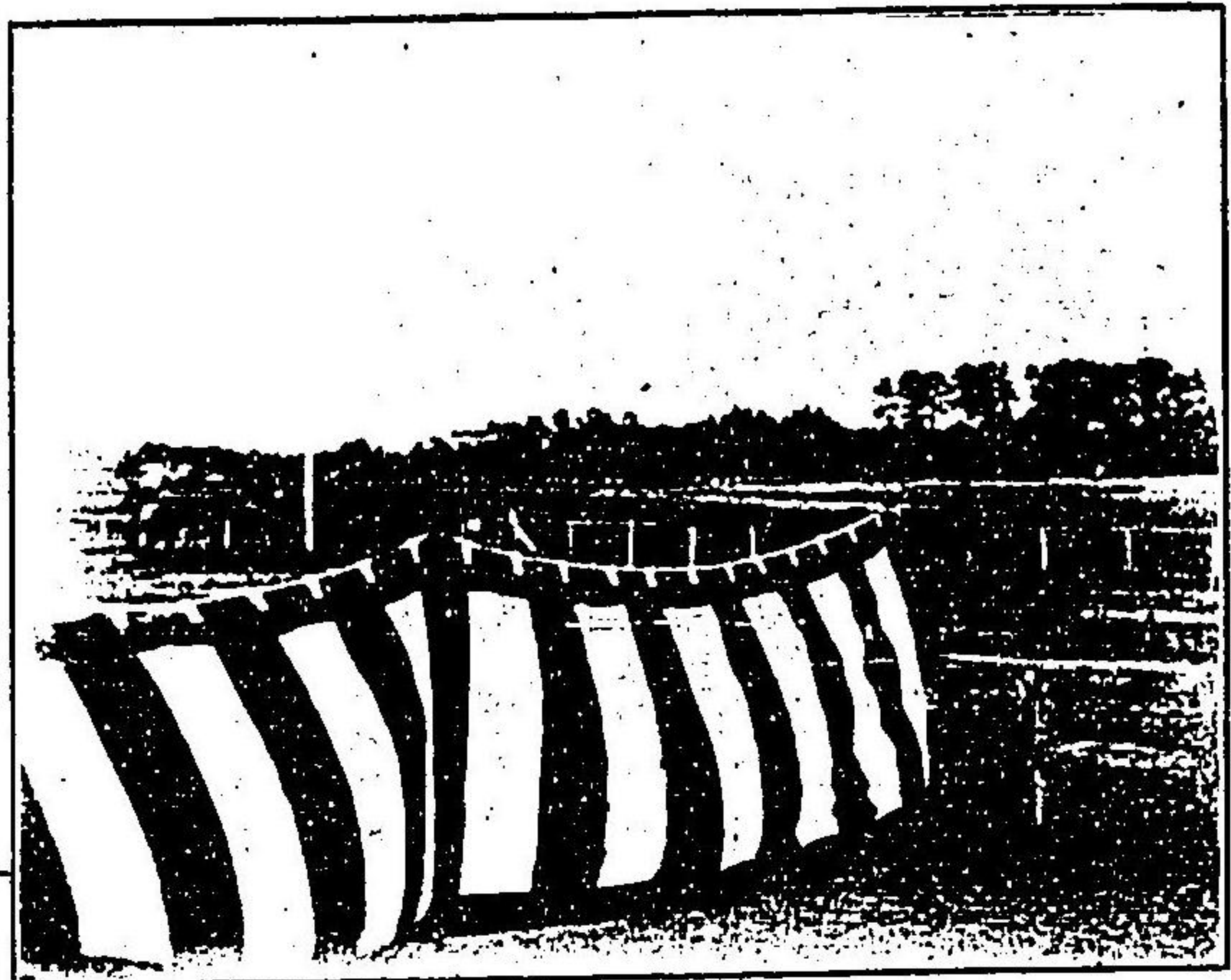
第一競馬 午前十時第一鐘、午前十時十分發馬 幼駒競走 距離八分ノ三哩
 内國產馬ノ爲メニ設ク重量ハ凡テ六十斤トス

番號	馬名	毛色	年齢	體尺	產地	住畜所	氏名
一	清滿	茶毛	二歲	四尺七寸五分	大隅國岩川	宮崎郡大宮村	石川龜彌
二	萬世	栗毛	同	四尺六寸	日向國小林	同 郡櫻村	野中龜吉
三	浪音	鹿毛	同	四尺六寸八分	同 國綾	東諸縣郡本莊村	鈴木瓦之助
四	日出松	鹿毛	同	四尺六寸	同 國西嶽	宮崎郡櫻村	日高松五郎
五	相模	同	同	同	同 國高原	同 郡大宮村	小田原市次
六	高島	同	同	四尺五寸八分	大隅國末吉	同 郡同村	高妻彌三郎
七	隈野	栗毛	同	四尺六寸	同	東諸縣郡本莊村	鳥原一藏
八	淀江	同	同	同	日向國大宮	宮崎郡大淀村	下部嘉四郎

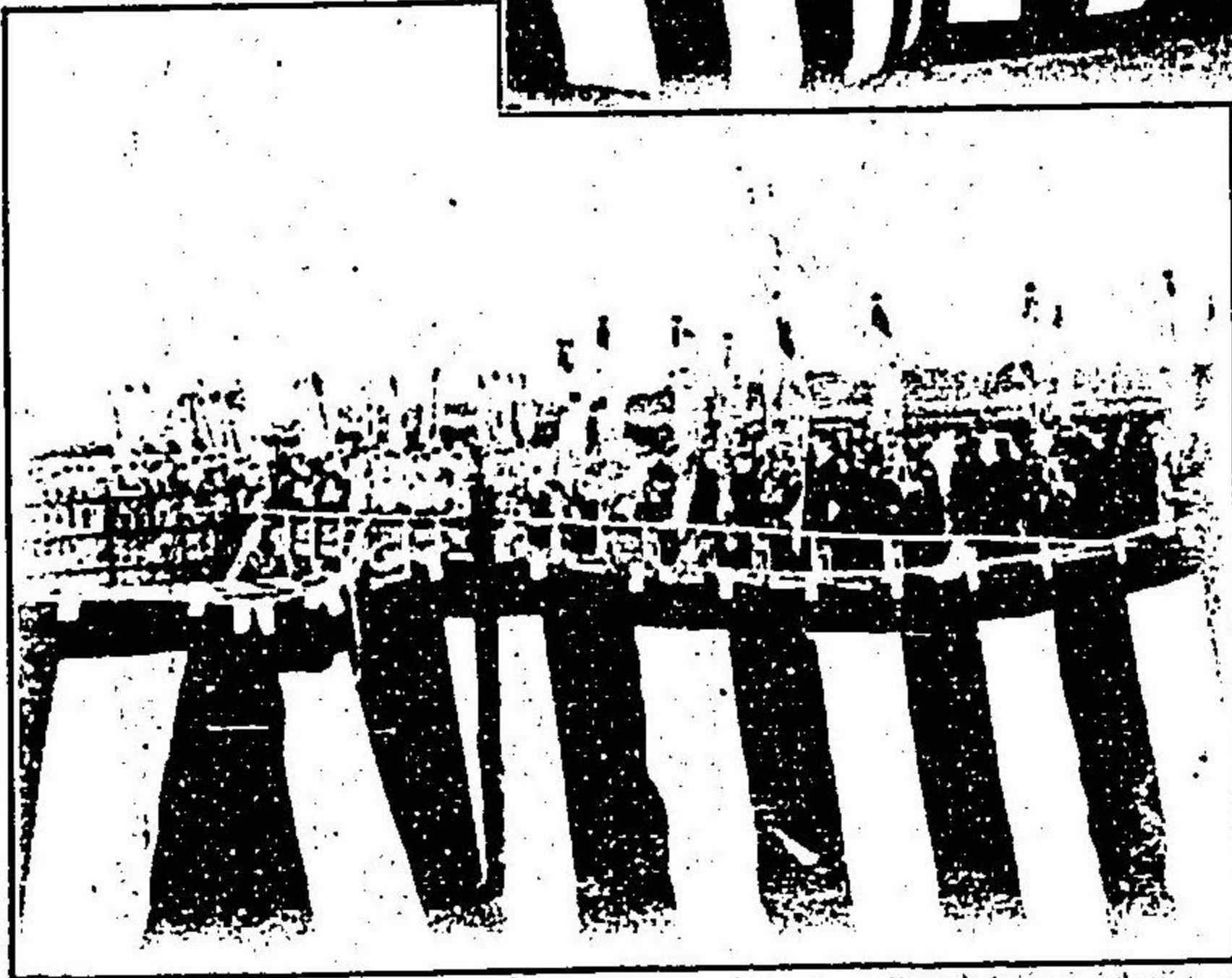
右一著賞ハ清滿號、二著賞ハ萬世號

第二競馬 午前十時二十分第一鐘、午前十時三十分發馬

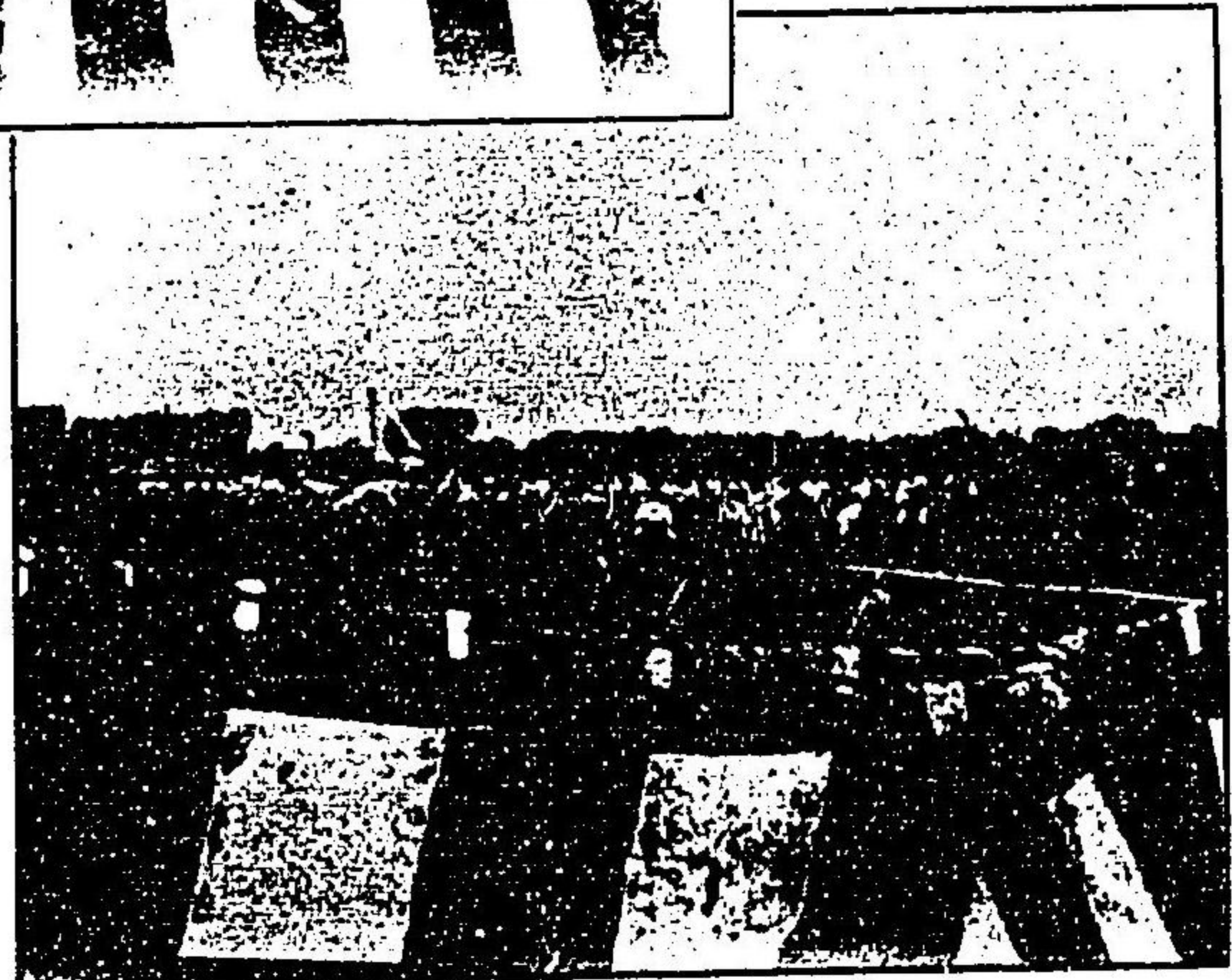
壯馬競走 距離一哩



宮崎競馬場(競馬)



同上(白太鼓踊)



同上(辨慶踊)

内國産馬ノ爲メニ設ク重量ハ馬齡トス

番號	馬名	毛色	年齢	體尺	產地	住畜所	氏名
一	千歲	鹿毛	三歲	四尺八寸	日向國綾	東諸縣郡木脇村	千手善作
二	川藤	栗毛	同	四尺七寸五分	同國大宮	宮崎郡大宮村	小川倉吉
三	鞍馬	鹿毛	四歲	四尺九寸	同國高原	東諸縣郡倉岡村	鈴木伊右衛門
四	松ヶ枝	青毛	同	四尺七寸五分	大隅國末吉	兒湯郡三納村	松浦善五郎
五	廣野	鹿毛	三歲	四尺七寸	日向國大宮	宮崎郡大宮村	大原徳次
六	千代田	同	四歲	四尺九寸五分	陸奥國七戸	同郡住吉村	兒玉岩藏
七	露堀	栗毛	同	五尺〇五分	日向國延岡	東臼杵郡恒富村	井上廣吉
八	隅田川	青毛	同	四尺八寸	同國小林	宮崎郡大宮村	黒木爲吉

右一著賞ハ隅田川號、二著賞ハ鞍馬號

第三競馬 午前十時四十分第一鐘、午前十時五十分發馬

壯馬競走 距離一哩八分ノ一

内國産馬ノ爲メニ設ク重量ハ馬齡トス

番號	馬名	毛色	年齢	體尺	產地	住畜所	氏名
一	西ノ海	鹿毛	四歲	四尺八寸五分	大隅國恒吉	宮崎郡榑村	中原貞次
二	滿葉	同	同	五尺一寸	下總御料牧場	同郡赤江村	坂元壘發藏

三	第二フエ	栗毛	長齡	五尺	九州牧場	西諸縣郡加久藤村	齋藤貞利
四	豐國	同	四歲	四尺八寸	北海	大分縣	矢野三代
五	藤時	鹿毛	長齡	五尺二寸五分	下總御料牧場	鹿兒島縣	別府巳之助
六	時政	同	同	五尺一寸	日向國八代	宮崎郡大宮村	奥野儀作

右一著賞ハ第二フエドール號、二著賞ハ滿葉號

第二競馬競走中如何ニシケム第七ノ露堀號柵外ニ逸走シテ騎手爲メニ落馬シタリ 殿下之レテ御覽ナハシ御心ヲ配ラセラレ側ニ侍リシ永井知事ニ向ヒ「怪我はなかりしか」トノ御下問アリシヲ以テ知事ハ恐懼措ク能ハス即時取調ヘ無事ナル旨ヲ奉答シタルニ始メテ御心ヲ安ンセサセ給ヒケリトナン

此ヨリ先キ競馬會ニ於テハ宮崎宮御參拜ノ途次台臨ヲ仰キ縣下育馬ノ状態ヲ御覽ニ供センコトヲ熱望シ此望ヲ達センカ爲メニハ宮崎宮社前ヨリ競馬場ニ通スル道路ヲ開鑿セサル可カラサルヲ以テ地主ニ對シ交渉ヲ重ネ土地ノ買収ヲ了ヘ地元村内ヨリ一千有餘人ノ力役寄附ヲ受ケ僅ニ三時間内ニ延長二百四十間幅四間ノ道路ヲ開鑿シタリ前記第二鳥居前ヨリ國道ニ通スルモノ即チ是レナリ 台覽ニ供シタル曰太鼓踊、棒踊、辨慶踊ノ由來左ノ如シ

宮崎郡住吉村曰太鼓踊(四十六名一組白衣)ハ記録ノ證スルモノナキ爲メ詳ニ其由來ヲ知ルニ由ナシト雖モ口碑ニ傳フル處ニ依レハ天正六年豊後ノ大友宗麟薩領ヲ侵略セントシ大軍ヲ率キテ本縣兒湯郡美々津川ニ來ル島津ノ兵土民ニ裝シ武器ヲ匿シテ大友軍ニ至リ軍中ノ徒然ヲ慰メンカ爲メ曰太鼓踊ノ技ヲ演セント乞ヒ其他意ナキヲ示シ技藝シ興酣ナルトキ突然旗ノ帽ヲ脱シテ銳鋒ヲ現シ太鼓ヲ破リテ短兵ヲ出シ敵ノ陣中ニ突貫シ大ニ大友軍ヲ破リ亦起ツ能ハサルニ至ラシメタリ住吉村ハ其後薩藩ノ分家佐土原藩ノ所領ニ屬セル爲メ爾來同村民ハ五穀成就家運長久ヲ祈ルノ目的ニテ藩主ノ許ヲ得毎年八月十五日ヲ期シ村民何レモ鎮守ノ神前ニ集リ曰太鼓踊ト稱シ該技ヲ演スルノ慣例ヲ作ルニ至レルモノナリト云フ

清武村曰太鼓踊(船引、庵屋、黒北、丸目ノ四組百名)ノ由來モ亦記録ノ存スルモノナキ爲メ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ口碑ニ傳フル處ニ依レハ豊臣秀吉朝鮮征伐ノ際軍略トシテ薙刀、槍等ヲ旗幟ニ包ミ鎧冑ヲ太鼓ノ中ニ匿シ敵ニ接スルヤ頻ニ踊ヲ演シ敵ヲシテ其備ヲ怠ラシメ隙ニ乘シ突擊ヲ試ミ以テ大捷ヲ得タル事例ニ模擬センモノナリト云ヘリ從來村民ハ毎年秋期彼岸ヲ期シテ村内ニ大將軍又ハ軍神ト稱シ磐長姫命ヲ祭レル神社ニ集リ曰太鼓踊ヲ演シ以テ神靈ヲ慰メ併セテ五穀成就家運長久ノ祈禱ヲ爲スニ至レリ丸目ニ於テ始メテ此技ヲ爲セシハ今ヨリ一百年前ニシテ維新前ハ毎年秋期彼

岸ニ維新後ハ明治八年、同二十四年、同三十八年ノ秋彼岸ニ演シタルコトアリト云フ
 宮崎郡生目村大字富吉棒踊（二百名一組黒衣）ハ舊薩摩藩主島津義久元和年間琉球ヲ征伐シテ凱旋
 スルヤ壯年ノ武士一團トナリ戰勝ヲ祝センカ爲メ武器ヲ持テ演技セシニ始マリ爾來同藩中到ル處
 城址及堤防等ノ新築毎ニ之ヲ演セシカ本村大字富吉ニ此技ヲ傳來シタルハ貞享元年ヨリ同二年ニ互
 リ字眞田ニ延長七十餘間高サ五丈六尺餘ノ堤防ヲ新築スルニ際シ役夫疲勞ヲ極メ到底成功ノ見込ナ
 キヲ以テ當時薩藩ヨリ富吉村ニ轉住シ居タル某ヨリ傳習ヲ受ケ時時之ヲ演シテ其疲勞ヲ慰シ以テ其
 目的ヲ遂クルヲ得タリ爾後明治三十二年迄ハ毎年夏季ノ候ニ於テ神社佛堂ノ祭禮法要等ノ際餘興ト
 シテ之ヲ演シタリ

東諸縣郡木脇村棒踊（六十名一組形付衣）ハ故老ノ口碑ニ依レハ 神武天皇御東征ノ節今ノ兒湯郡
 地方ニ至ラセ給ヒ夜ニ入り瀬川ノ邊リニ野營アラセラル、ニ方リ從者等 天皇ノ御旅情ヲ慰メ奉ラ
 ントテ歌舞ヲ獻シタルニ始マリタルモノナリト云フ元和年間ニ至リ舊薩摩藩主島津家久琉球ヲ攻メ
 大捷ヲ得タルトキ時ノ武士一團トナリテ之ヲ演シタルニ後遂ニ地方ニ傳ハリタルモノ、如シ本村ニ
 在リテハ大字木脇始メテ之ヲ行ヒ氏神ノ祭典及村ノ工事等アル時ニ於テ必ス之ヲ演シテ五穀ノ成熟
 ヲ祈リ若クハ工役ノ勞ヲ慰ムル例トナリシカ演技者漸ク減シテ一時退歩ニ傾キタリ後有志相糾合シ

毎年秋期米穀ノ成熟季ニ方リテ演技スルニ至レリ

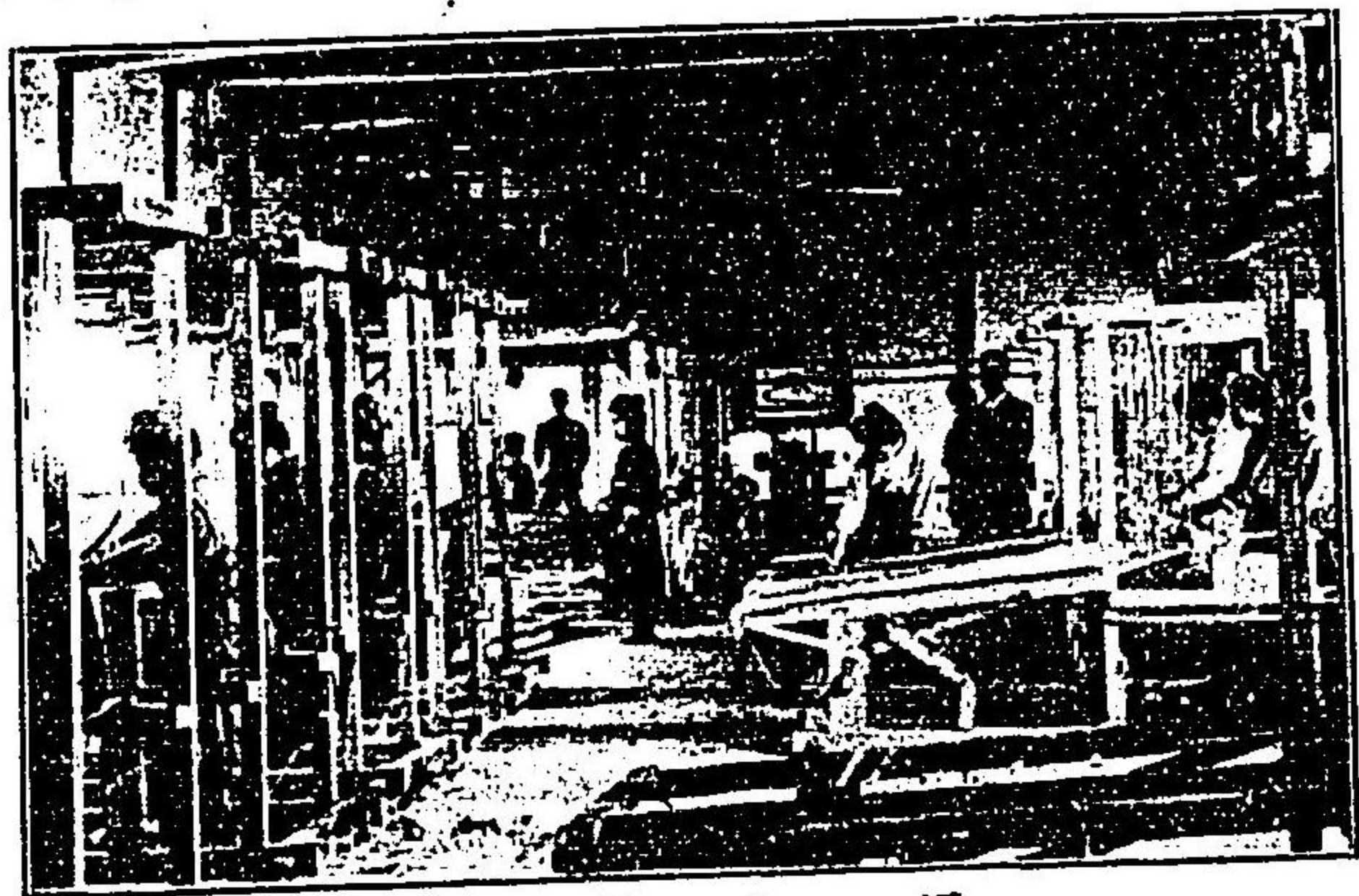
東諸縣郡高岡村大字花見辨慶踊ハ一名薙刀踊ト稱ス（七十名一組）頭ニハ後鉢卷ヲナシ白衣ニ襷ヲ
 掛ケ手抜脚絆ヲ著ケ大刀ヲ帶ヒ木製ノ薙刀ヲ携フ今ヲ距ル二百餘年前徳川幕府ノ命ニヨリ薩藩ノ内
 情視察ノタメ浪人ニ身ヲ窺シ此村ニ滞留シタル一士アリ村民ハ之ヲ「テンカノジョウウシ」ト稱フ蓋
 シ「テンカ」ハ幕府ヲ意味シ「ジョウウシ」ハ上司ノ儀ナラン此人村民ニ此踊ヲ教ヘ置キ退去後九年
 目ニ宮崎ニ來リ村民八名ヲ呼寄セ踊ノ存否ヲ問ヒ鐘太鼓ヲ與ヘタル由ニテ音響頗ル高妙惜ムテクハ
 數十年前ヨリ所在ヲ失ヒタリト云フ爾後高岡龍福寺ノ島津家歴代ノ靈前ニ於テ此踊ヲナシ來リシカ
 更ニ溜池道路等大工事ノ際ニ於テ慰勞ノタメ之ヲ行フニ至レリ現時ハ招魂社例祭ニ毎年之ヲ演ス
 スクテ御座所ヲ出テサセラル島津總裁以下競馬會役員構外ニ奉送ス 殿下ハ御
 徒步ニテ同所南方ニ開催中ナル宮崎縣馬匹共進會ニ成ラセラル

宮崎縣馬匹共進會ニ於テハ審査長馬政局技師湯地彦二、審査官種馬所長澤村狷
 藏、審査官宮崎縣農業技師有川哲二以下事務員御通路ノ左側ニ奉迎シタリ 殿
 下ハ左手ニ御佩劍ヲ杖ツカセラレツ、厩舎内ニ繫ケル馬匹及重要物産共進會動

(一 其) 校學業職立郡崎宮



同上 (其 二)



(三 其) 上 同

物館出陳ノ畜牛ヲ一御覽アラセラレ知事ニ種種御下問アリ知事ハ詳ニ御答申上ケ午前十時四十五分全ク御覽ヲ了ヘサセラレ奉送ノ諸員ヘ御會釋ノ上南門ヨリ御乗車午前十一時十分御旅館ニ御歸著遊ハサル

宮崎郡立職業學校

午後一時三十分御旅館御出門宮崎郡立職業學校ニ成ラセラル適雨俄ニ到ル殿下ハ幌モ召サセラレス供奉員以下亦雨具ヲ用ヒス隨從シタリ職業學校職員生徒ハ門前ニ整列シ校長事務取扱塚本常彌玄關ニ奉迎シ御座所ニ御案内申上ケタリ御座所ハ新シキ建築ニシテ裝飾ニモ意ヲ凝ラシ左側ニ机ヲ置キテ生徒ノ製作品ヲ陳列シ周圍ハ幔幕ヲ垂レ金屏風ヲ繞ラシタリ殿下入御アラセラル、ヤ直チニ製作品ニ御目ヲ止メサセラレ種種御下問ノ末恐レ多クモ御手ヲ觸レサセラレ御賞美アラセラレタリ暫時御休憩ノ後校長事務取扱御先導申上ケ挽物工場、彫刻工場、指物工場、機織工場等順次御巡覽種種御下問アリ再ヒ御座所ニ入御陳

列品ノ内丸盆二枚、彫刻シタル杖二本、丸火鉢二箇、卷煙草入二箇、硯箱二箇、織物三反、灰皿二箇其他數點ヲ御買上ケ相成リ知事ノ手ヲ經テ御寫眞ヲ下賜セラレ還啓仰セ出サル此時雨ハ益降リシキリタルモ 殿下ニハ更ニ厭ハセララル御氣色モナク御車ノ幌モ用ヒ給ハス御外套ノ頭巾サヘ被ヒ給ハス悠然トシテ還啓アラセラル衆拜送シ誠恐措ク所ヲ知ラス御旅館御著午後二時十五分ナリ本日左ノ通達アリタリ

皇太子殿下來四日午前八時御旅館御出門宮崎縣立農學校へ行啓引續キ左ノ箇所御休憩ノ上内海港ヨリ驅逐艦ニ召サセラレ油津ニ於テ御召艦ニ御移乗午後五時頃同港御發艦ノ事ニ御治定被爲在候條此段及通達候也

明治四十年十一月二日

東宮大夫代理

東宮武官長男爵

村木雅美

宮崎縣知事永井 環殿

午前十一時頃 青島村字折生迫御著海岸ニ於テ御少憩
正午頃 内海尋常小學校御著

御晝餐

午後

驅逐艦ニ被爲召内海御發艦

油津港御著艦

同五時頃

油津港御發艦

十一月五日

午前七時頃

大分港御著艦

此夜中等諸學校職員生徒ハ提灯行列ヲ爲シ 殿下ノ御慰覽ニ供シ奉ルノ企テアリ偶朝來猛雨衆皆
此舉ノ空シカランコトヲ恐ル幸ニシテ午後三時頃ヨリ雨全ク歇ム乃チ各學校江平囃ニ集合シ午後六
時二十分點火シテ出發ス其順序ハ第一向陽學舎、第二延岡中學校、第三都城中學校、第四兒湯郡立農
業學校、第五縣立農學校、第六宮崎中學校、第七師範學校ニシテ遠藤師範學校長ヲ總指揮者トス四列

或ハ三列トナリ制帽制服ノ甲斐甲斐シキ姿ニテ何レモ長サ約四尺許リノ竿頭ニ紙製ノ國旗ヲ附ケ其
下ニ總赤、赤地ニ白ノ丸、白地ニ赤ノ丸ノ圓形又ハ長圓形ノ提灯ヲ吊シ各學校其眞先ニ二箇ノ高張
提灯ヲ押立テ嚙啞タル喇叭ノ響ニ連レ隊伍肅肅國道筋ヲ經テ橘橋ヲ南ニ渡リ中村町ニ入り二列トナ
リ眞光寺通ヲ河岸ニ出テ御旅館正南ノ破中ニ集合ス先隊既ニ十重二十重トナリテ定所ニアレトモ後
尾ハ尙殘ツテ橋ノ北方ニアリ森ヲ縫ヒ林ヲ貫キ蜿蜒脈脈斷又續壯景美觀ヲ呈ス觀衆喝采不知不識萬
歲ヲ絶叫セサルモノナシ是ヨリ先キ殿部隊橘橋六合目ヲ通過セントスル頃驟雨俄ニ到リ較雜沓ヲ
來シタレトモ暫クシテ雨歇ミ事ナキヲ得タリ斯クテ總隊悉ク豫定地ニ到著シ北面シテ整列ス總員凡
二千名總指揮者ノ發唱ニ從ヒテ 皇太子殿下ノ萬歲ヲ三唱シ奉ル反響洋洋雲ニ入り海ヲ搖カス歸途
ハ各學校各其新作ノ軍歌ヲ唱ヘツ、二列ノ儘城ヶ崎町ニ出テ四列トナリテ西行中村町ヲ經テ橘橋ヲ
渡リ上野町四丁目ヨリ川原町ヲ過キ縣廳馬場ニ至ル此時東宮主事ヨリ各學校ノ奏歌ヲ差出スヘシト
ノ命アリ乃チ即夜淨寫シテ奉進ス左ニ其二三ヲ掲記ス

(宮崎中學校)奉迎ノ歌

(教師田村正一作)

一 高く尊く類ひなき

歴史の色に染められて

朝、霧峰の濃紫

夕、赤江の淺綠

萬古變らぬ面影を

二年は流るゝ幾めぐり

浪邊疆にむらぎて

民の眠りは安くして

三 神靈よさし深うして

高き御稜威は朝日子の

其源をかしくも

四 しかそ尊き神の國

ありし昔を尋ねんと

鄙の細路を分け給ふ

五 峰巒高く谷深く

天涯遠く風荒れて

思ひかけきや御車の

六 龍駕一度東して

深くも刻む古帝州

雲に去來の世の定め

神の齋壇の高ければ

花永劫の春の色

鴻基ゆるがぬ大八洲

豊榮昇る御國より

深く止めし古帝州

遠きゆかりの跡とめて

雲井遙かに天かけり

あやにかしこき明の宮

榛莽埋む苔のみち

狂瀾鎖す海の果て

玉のゆらぎを聞かんとは

風物變はる三千の

昔の譽れまたこゝに

送り迎へし舊山河

七 紫雲彩る天の文

山は錦の晴れの袖

歡呼の聲は國の外

八 報本反始の眞心を

成りしを告ぐる喜びに

今年千載一遇の

九 奮へ國民五十萬

譽を殘す古帝州

立てよ進めよ諸共に

十 何によそへむ喜びの

翳す燈火紅の

聞えあぐべき術もなし

繰り返したる古帝州

問はむ懷古の感いかに

瑞氣溢るゝ地の光り

海は祝ひの波の歌

かけてとよまぬ方もなし

籠めし神武の大神

猶重ねたる目出度さは

尊き明治四十年

天地と永き靈蹟の

名實併せ高むべく

今日を尊き記念にて

包むに餘る眞心は

色こそ見ゆれ言の葉の

あゝ難有き今日の日や

(宮崎縣師範學校)奉迎ノ歌

よろこび

(教諭立川伊三郎作)

- 一 大空高く氣は清く
平和の色を表して
こゝ大宮の原頭に
三つ葉四つ葉の舍作り
坤輿の民の師たるべく
夜を日についで勉むなる
- 二 頃は明治の三十三年
關雎を謡うて御慶事の
時の校友相はかり
晚翠合む長松と
契盟永く東宮を
いや榮えます 殿下をば
迎へ奉るぞめでたけれ
- めぐるる山の紫に
神代ながらの姿なり
うべも富みけり咲き草の
日州健兒の二百人
心の希望に輝きつ
師範の庭を君見すや
五月十日の吉辰に
記念を永久に貽さんと
松と石とを植ゑてけり
緑苔粧ふ堅石と
保護しまつりて今こゝに

三 あゝ幸多き大御代や

片山里に鶴駕をば

- 枉げさせ給ふみめぐみに
天に舞ゆる高千穂の
洋洋として大淀の
心と身をば鍛へつゝ
高く大きく清らなる
- 報ゆと云ふもかしてけれ
熾ゆるが如き熱性と
止むなき如き意力もて
理想を逐ひて進みなん
重き使命を果たさなん

神武天皇の歌

(教諭黒木 寛作)

一 天の八重雲押わけて

天孫降臨ましまし

高千穂の嶺は今もなほ
雲に聳えていや高し

神代の聖姿さながらに

二 地は錦の文衣

秋晴朗のたゞ中を

さら／＼と行く大淀の
調太初シラタマのひゞきあり

清き流の歌きけば

三 嗚呼此水とこの山と

幾千載の後の世に

活ける歴史を語る哉

世にも尊き古帝州

四 世にも尊き古帝州

三千年遡き春秋の

織出したる神の國

五 今秋明治の四十年

丹誠こめし國民の

あはれ神武の大社

六 燦爛たりや新殿の

千古の老木天を摩し

あはれ神武の大社

七 瑞雲四方に舞きて

人の心に咲き匂ふ

げに雲井にや通ふらん

これぞ高照る日の本の

天地と寶祚窮みなく

眺めあやなる大八洲

めでたき御降誕祭らんと

善美つくせし盤の香や

千木に旭の昇る時

神殿更に身にせまる

そよ吹く風は樂の音か

誠の色の花の香は

八 瑠璃なす空の彩雲を

鶴の御駕殿に

迎へまつるぞかしてけれ

九 あゝ有難き大御代や

外國人も草も木も

千秋萬歳諸共に

翅にかけて東ゆ

轍ぞにほふ日の御子を

鄙には餘る幸の日を

天地とよもしいざ謠へ

斯クテ提灯行列隊ハ縣廳馬場ヨリ縣廳前通ニ出テ國道筋牛圓ニ至リ茲ニ各學校自由ノ行動ヲ取り隨
意退散シタリ一行カ各自提灯ヲ捧ケ勇壯ナル歌ヲ唱ヘツ、二百餘間ノ橋橋上ニ立チ顯ハレタル時ノ
如キハ實ニ壯觀ニシテ之ヲ觀ンカ爲ニ寄り集レル者道ノ兩側ニ堵ヲ作り一時全ク交通ヲ遮斷シタリ

餘 興

宮崎郡赤江、宮崎漁業組合ノ主宰ニテ二十艘ノ漁船ニ投網手ヲ乗組マシメ御旅館前ニ於テ潑刺タル
川魚ヲ漁シ夜ニ入りテハ前夜ニ同シク御旅館對岸ニ電燈裝飾ヲナシ且ツ日向水力電氣株式會社ヨリ
流燈即チ國旗一、篝火三百箇ヲ流シ御旅館前ヲ通過セシメタレハ一層ノ壯觀ヲ添ヘタリ

十一月三日

天長節

一三八

此日雨晴ル 皇太子殿下啓ノ盛儀ニ加フルニ宮崎宮遷宮ノ祭典引續キ行ハルルアリ更ニ本日 天長ノ大節ニ會ス慶瑞重ネ來リ祝祥併セ到ル歡天喜地措ク所ヲ知ラス遐邇爭ヒ來ルモノ殆ント五萬ヲ下ラス爲メニ空前ノ殷賑ヲ極メタリ御旅館ニ於テハ供奉員ヲ召サレ内宴ヲ催サセラレ賜フニ酒饌ヲ以テシ特ニ永井知事ニハ御料理ヲ下賜セラル

參賀

高等官、高等官待遇者、有爵者、有位帶勳者、貴衆兩院議員及縣會正副議長等ハ午前九時ヨリ御旅館ニ伺候シ 天長節ヲ奉賀シ正七位勳七等以下有位帶勳者、判任官、同待遇者、町村長、縣郡會議員及宮崎町會議員等ハ行啓事務所ニ參候名刺又ハ賀表ヲ差出シ 天長節ヲ奉賀セルヲ以テ之ヲ東宮職ニ差出セリ

通達

皇太子殿下今三日午後三時御出門教育品展覽會へ行啓被爲在旨被仰出候間此段及通達候也

明治四十年十一月三日

東宮大夫代理

東宮武官長男爵 村木雅美

宮崎縣知事永井 環殿

禮砲

正午ヨリ 天長節ヲ賀シ奉リ併セテ 皇太子殿下ノ行啓ヲ祝シ奉ランカ爲メ百一發ノ皇禮砲ヲ發射セリ發射方ハ聯隊區司令部員之レニ當レリ

祝賀會

一三九

天長ノ佳節ヲ祝センカ爲メ當廳下所在ノ官民午前十一時ヨリ江北泉亭ニ會シ大祝賀會ヲ開キタリ時恰モ 皇太子殿下行啓中ナルヲ以テ稀有ノ盛況ヲ呈シ來會者二百八十名ノ多キニ達シ永井知事ノ發聲ニ和シ 兩陛下及 皇太子殿下竝ニ皇太子妃殿下ノ萬歲ヲ三唱シ正午十二時頃ヨリ隨意散會シタリ

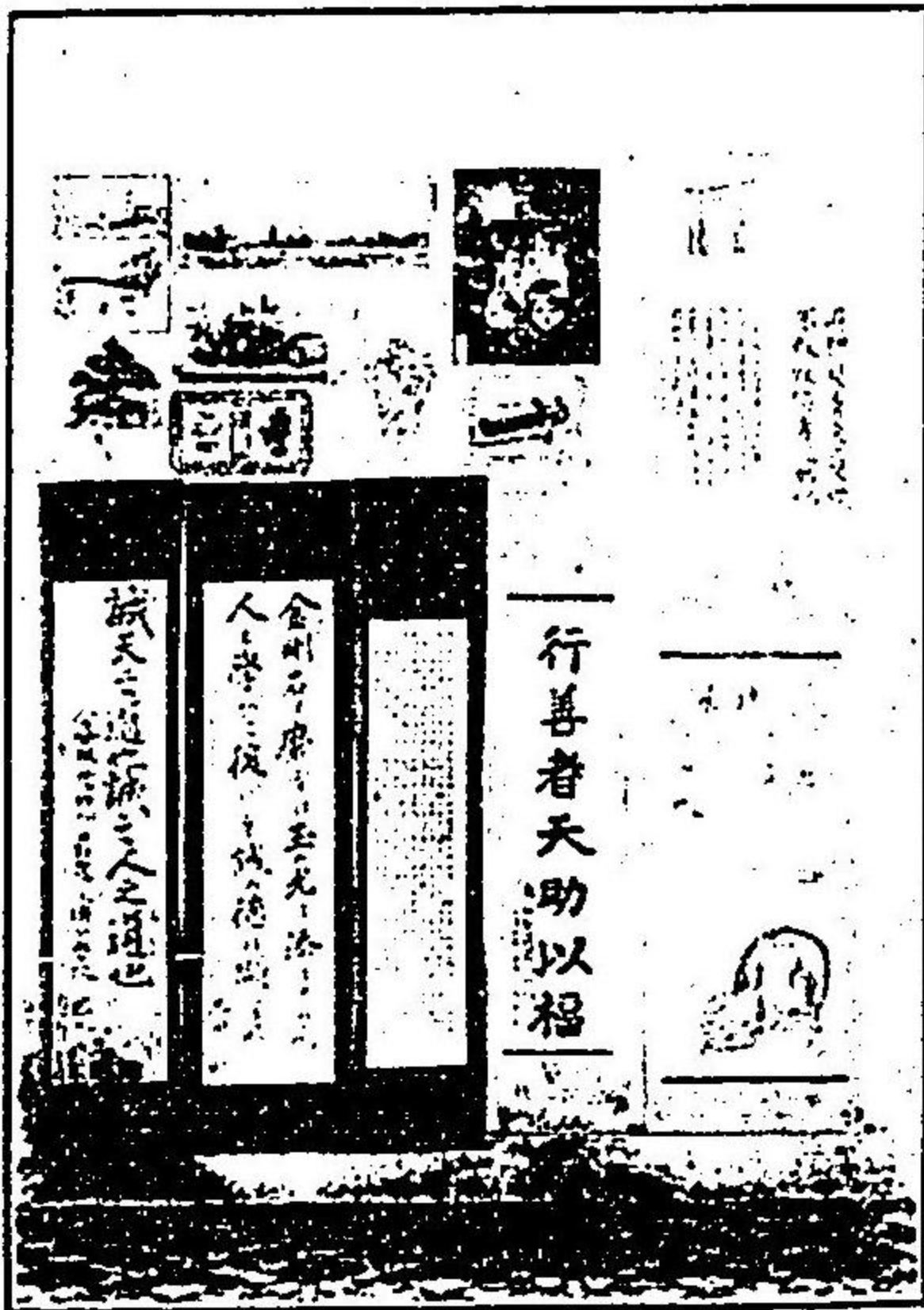
教育品展覽會

日州教育會ノ開催セル教育品展覽會ハ會場タル宮崎^{高等}小學校ノ狹隘ニシテ朽敗ノ箇所亦尠カラヌ加フルニ經費少額設備甚タ不充分ナルヲ以テ會員一同深ク 殿下台臨ノ光榮ニ洩ル、ノ止ムヲ得サルヲ遺憾トセリ圖ラサリキ二日ノ夜ニ至リ明三日午後行啓仰セ出サル、ヤモ計リ難キ旨ノ恩聞ニ接セントハ乃チ火急奉迎ノ準備ニ著手シ副會長以下ノ役員等自ラ器物ヲ運搬シ壁床等ヲ清拭シ或ハ石片ヲ拾ヒ來リテ留釘ヲ打チ込ミナトシテ御座所、供奉員控室等ノ設備竝ニ各陳列品ノ掃除ヲ終ヘタルハ三日ノ午後ナリキ

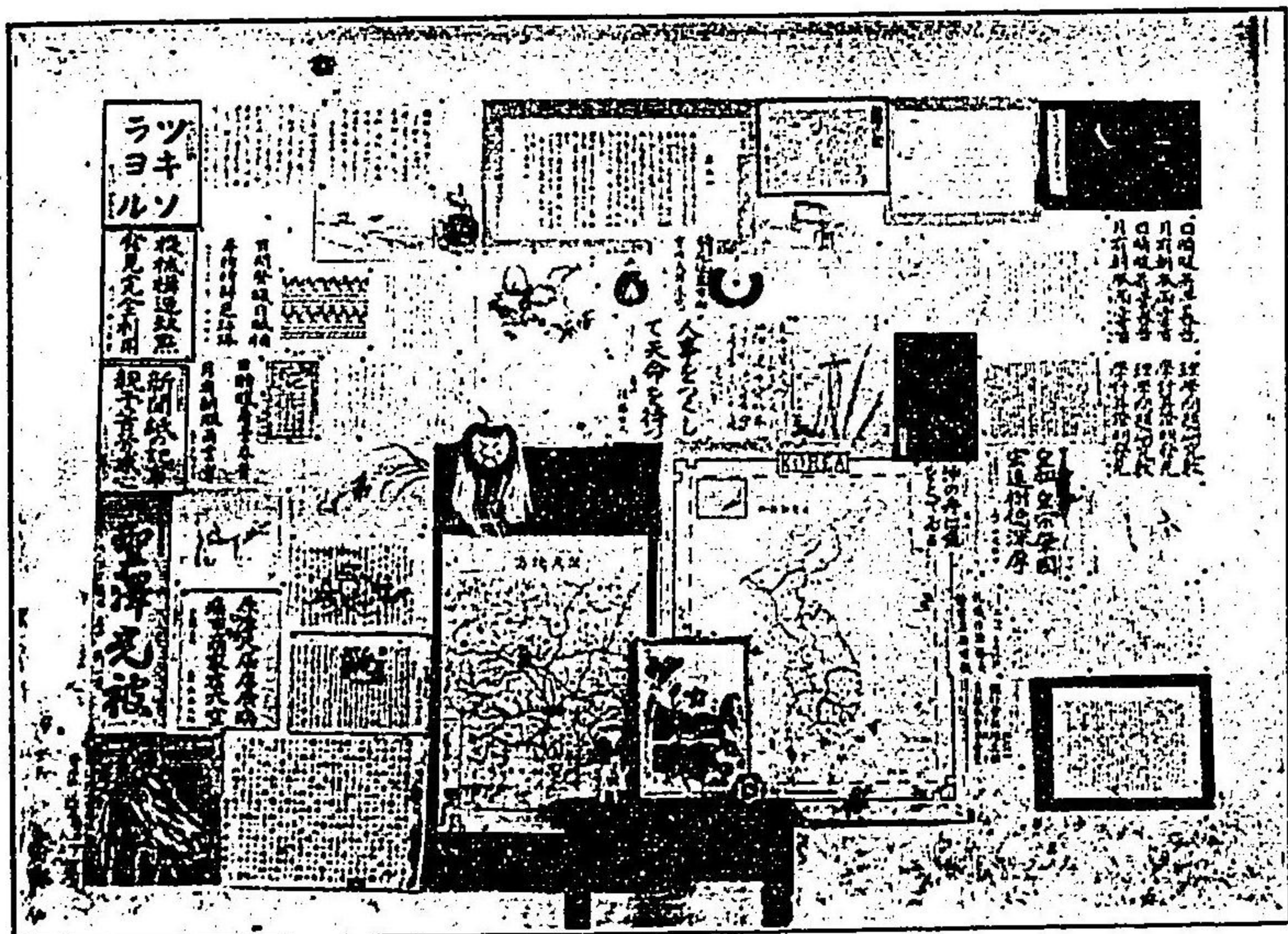
午前十一時半ニ至リ同日午後三時御出門ニテ展覽會ニ行啓ノ旨仰セ出サレタル



(一其) 會覽展品育教



(三其) 上 同



(二其) 上 同

ニ依リ本會ノ役員並ニ會員凡五十名門内北側ニ整列シテ奉迎ス時刻ニ近クニ隨
ヒ雲脚漸ク重ク遂ニ降雨トナリタレトモ御豫定ノ時刻ニ御旅館御出門御幌ヲ用
ヒサセ給ハス八幡馬場ヨリ旭通、縣廳馬場御通過三時五分御著アリ玄關ニ奉迎
セル會場係長遠藤正ノ御先導ニテ御休憩所ニ入ラセラル此時岡山孤兒院音樂隊
ハ君ガ代ノ國歌ヲ吹奏セリ少時御休憩ノ後會場係長ハ第一參考室ヨリ順次御案
内申上ケタルニ陳列品ノ數數洩レナク御目ヲ留メサセラレ折折御下問アリ知事
一一御説明申上ケタリ會宮崎婦人會ハ展覽會場内ニ慈善市ヲ開キ居タルカ此
日ハ 殿下ノ台覽ヲ賜ハルコト、テ同會員ハ永井知事夫人ヲ始メ五十餘名廊下
左側ニ整列シテ奉迎申上ケタリ順次中等教育實業教育ノ成績品ヲ御覽アリテ再
ヒ御休憩所ニ入ラセラル此間音樂隊ハ散步唱歌ノ譜ヲ吹奏シ後復タ君ガ代ノ國
歌ヲ吹奏ス三時五十五分還御仰セ出サル偶猛雨大ニ到ル畏クモ 殿下ニハ御
幌モ召サセス悠然トシテ還啓ノ途ニ就キ給フ衆拜仰シテ感泣セサルナシ同四時

御歸館アラセラル

當日ノ御買上品及後日日州教育會ヨリ奉獻シタル品名、箇數、製作者ハ左ノ如シ

教育品展覽會御買上品

一柳	一行	李	一	箇	宮崎縣兒湯郡立農業學校
一編	笠	三	三	箇	同縣南那珂郡依肥農業學校
一シ	ム	五	反	瓶	同縣立農業學校
一木	綿	三	箇	反	同縣南那珂郡依肥女子工業補習學校
一寫	眞掛	一	箇	上	同
一肱	ツキ	一	箇	上	同
一木	綿織	三	反	箇	同縣北諸縣郡都城女子職業學校
一小	判形柱掛	一	箇	上	同
一煙	草入	一	箇	上	同
一紋	絲織	一	反	箇	同
一利	久形紙入	一	箇	上	同
一葦	子織	一	箇	上	同
一更	織	三	反	箇	同縣東白杵郡延岡女子職業學校

一銀貨入

一箇

一箇

一同

一同

慈善市御買上品

一犬島袖
一卓掛
一肱ツキ
一雪帽子
一毛絲シャツ
一同黒毛絲帽子
一同
一ラシブ敷
一財ハンカチーフ布
一袖
一財布

一一一一一一一一一一一一

一箇反 一箇打 一箇筒 一箇枝 一箇筒 一箇枝 一箇筒 一箇枝 一箇筒 一箇枝 一箇反

日州教育會獻上品

- 一書 班(一軸)
- 班(番鼓)
 - 班(神風)
 - 班(慈愛)
 - 班(龜)
 - 班(扇形)
 - 班(山水)
 - 班(瓢箪二人物)
- 一大字(行善者)(一軸)
 一大字(天助以福)(一軸)
 一大字(金剛石)(一軸)
 一地圖(關東地方)(一軸)
 一地圖(Korea)(一軸)
 一中字(東湖正氣歌)(一軸)
 一大字(誠天之道也)(一軸)
- 一書(一軸)
 一書(一軸)
 一書(一軸)
- 宮崎縣東臼杵郡恒宮高等小學校高等科第三學年 齋藤正夫
 宮崎縣東臼杵郡坪谷高等小學校第四學年 岡山嘉吉
 宮崎縣東臼杵郡延岡女子高等小學校高等科第三學年 田部シズエ
 宮崎縣東臼杵郡恒宮高等小學校高等科第四學年 松本梯
 宮崎縣東臼杵郡恒宮高等小學校高等科第二學年 出先義男
 宮崎縣東臼杵郡延岡高等小學校高等科第三學年 稻見喜一
 宮崎縣東臼杵郡神門高等小學校補習科第二學年 大山又吉
 宮崎縣東臼杵郡田代高等小學校高等科第三學年 木本千三
 宮崎縣師範學校附屬小學校高等科第三學年(女) 池田和
 宮崎縣立宮崎中學校第一學年 阿萬克三
 宮崎縣立都城中學校第二學年 後藤康太郎
 宮崎縣立宮崎中學校第二學年 山口一二
 宮崎縣西臼杵郡上野農業補習學校 藤本民吉
 宮崎縣東諸縣郡高岡高等小學校高等科第四學年 新本一
 宮崎縣師範學校第三學年 花田清
 宮崎縣宮崎郡私立向陽學舎 植村京一

一作文帖(一冊)

- 一習字帖(一冊)
- 宮崎縣東諸縣郡八代高等小學校高等科第一學年 本田ニキ
 宮崎縣南那珂郡伏肥高等小學校高等科第四學年 湯地小三郎
 宮崎縣西諸縣郡須木高等小學校高等科第一學年 田添ツタエ
 宮崎縣北諸縣郡志和池高等小學校高等科第二學年 堤清
 宮崎縣兒湯郡細北高等小學校第二學年 横山重夫
 宮崎縣西臼杵郡高千穂高等小學校高等科第三學年 碓井タヘ
 宮崎縣宮崎郡官崎高等小學校高等科第四學年 新ハヤ子
 宮崎縣東諸縣郡總高等小學校高等科第四學年 徳丸豊吉
 宮崎縣立師範學校第四學年 染川研吉
 宮崎縣立延岡中學校第四學年 戸島禎治郎
 宮崎縣立延岡中學校第五學年 三浦逸夫
 宮崎縣立都城中學校第五學年 貴島志
 宮崎縣立高等女學校第一學年 太田チカ
 私立延岡高等女學校第二學年 清水あね
 私立延岡高等女學校第四學年 直井はる
 宮崎縣宮崎郡私立向陽學舎 那須福市
 宮崎縣兒湯郡新田高等小學校高等科第一學年 伊東克馬

宮崎縣西諸縣郡紙屋 <small>高等</small>	宮崎縣西白杵郡押方 <small>高等</small>	宮崎縣兒湯郡高鍋 <small>高等</small>	宮崎縣西諸縣郡小林 <small>高等</small>	宮崎縣兒湯郡高鍋 <small>高等</small>	宮崎縣東諸縣郡移佐 <small>高等</small>	宮崎縣北諸縣郡都城 <small>高等</small>	宮崎縣北諸縣郡庄内 <small>高等</small>	宮崎縣南那珂郡油津 <small>高等</small>	宮崎縣南那珂郡飯肥 <small>高等</small>	宮崎縣南那珂郡那高 <small>高等</small>	宮崎縣西白杵郡高千穂 <small>高等</small>	宮崎縣西諸縣郡飯野 <small>高等</small>	宮崎縣立都城中學校第一學年(英字)	宮崎縣立延岡中學校第一學年	宮崎縣立高等女學校第二學年	私立延岡高等女學校第三學年	宮崎縣立高等女學校第四學年
高等小學校尋常科第三學年	高等小學校尋常科第四學年	高等小學校尋常科第一學年	高等小學校高等科第一學年	高等小學校高等科第二學年	高等小學校高等科第二學年	高等小學校高等科第三學年	高等小學校高等科第三學年	高等小學校高等科第三學年	高等小學校高等科第四學年	高等小學校高等科第四學年	高等小學校高等科第四學年	高等小學校高等科第四學年	中	直井	本吉	長谷川	井上
高木	後藤	明野	高城	中川	荒川	坂元	帖佐	戸田	長友	安田	甲斐	鎌田	中路	直井	本吉	長谷川	井上
エ	寅	ア	彦	幸	シ	之	久	久	久	新	新	政	清	一	ヨ	ゆ	カ

一手工品ノ一(一箱)

人形

鳥賊釣

一手工品ノ二(一箱)

巾 著(白尾)

一手工品ノ三(一箱)

厚紙細工(六角)

袋(赤腰)

巾 著

巾著(桃腰)

植物標本(芙蓉)(額一面)

動物標本(海膽解體)(額一面)

一圖班帖ノ一(一冊)

馬 顔

果物ト鳥

花ト幼児

殿島鳥居

神 童

宮崎縣宮崎郡佐土原高等小學校高等科第四學年

宮崎縣東白杵郡島野浦高等小學校第四學年

宮崎縣東諸縣郡本莊高等小學校高等科第四學年

宮崎縣東白杵郡高高等小學校高等科第四學年

宮崎縣宮崎郡宮崎高等小學校尋常科第四學年

宮崎縣東白杵郡門川高等小學校高等科第三學年

宮崎縣立宮崎中學校第三學年

宮崎縣師範學校第三學年

宮崎縣東諸縣郡高岡高等小學校高等科第三學年

宮崎縣宮崎郡宮崎高等小學校高等科第三學年

宮崎縣東白杵郡私立日本高等小學校高等科第四學年

宮崎縣師範學校附屬小學校高等科第四學年

宮崎縣師範學校第二學年

白坂吉太郎

長野彌太郎

長岡マキ

濱田 憲

落合ツタエ

龍原フミ

赤澤アイ

加藤三郎

中村三津男

長野計佐

中村秀好

津隈彌助

矢吹要

霧島山

牛嶽圖案

地 圖(九州)

校 舎

一圖班帖(二冊)

扇面ノ竹

山 水

牛

稻ト風

扇面富士

門

海 戰

木 槿

劍術道具

百合花

花

柘榴ト桃

圖 案

一三八

宮崎縣立都城中等學校第三學年

宮崎縣師範學校第一學年

宮崎縣北諸縣郡都城商業學校第一學年

宮崎縣宮崎郡私立向陽學舎

持田 堯

小森 タウメ

黒木 ヲメ

津曲 正一

福島 多市

池袋 新與

廣山 榮

四元 宏

清水 さか

金丸 繁治

上玉 利助

興相 治八

福田 仲吉

中島 義信

菊澤 貞雄

山村 まつえ

中島 喜志

松浦 イエ

私立日州教育會ハ今ヲ距ルコト二十餘年前師範學校長遠藤正等十數人ノ發起ニヨリテ創設セラレ爾來縣下ノ教育家及有志家ノ協賛ヲ得テ教育上ノ諸問題ヲ講究審議シ以テ斯界ニ貢獻セン所尠ナカラズ會員日ニ月ニ増加シ現今一千有餘名ノ多數ヲ有スルニ至レリ明治三十二年ノ春神武天皇御降誕大祭ノ時ニ當リ縣下ノ文化ヲ啓發シ教育ノ發展ニ資センカ爲メ教育品展覽會ヲ開催シ縣下ノ教育品ヲ蒐集シ以テ公衆ノ觀覽ニ供シタリ今年亦宮崎宮竣功報告祭舉行セラル、ニ當リ其記念トシテ教育品展覽會ヲ開催スルコト、ナレリ時恰モ 殿下行啓ノ盛事ニ際會シ展覽會場爲メニ來觀者ノ娷集ヲ來スニ至レリ展覽會ハ十月二十九日ヨリ十一月六日迄宮崎尋常小學校内ニ開會シ其費用金三千六十圓ヲ要シ内一千二百圓ハ本縣ノ補助ヲ受ケ餘ハ會員其他ノ義捐金ヲ以テ之ニ充テタリ出品物ハ初等教育中等教育實業教育及第一第二參考品ノ五部ニ分テ別ニ個人ノ出品、戰利品ノ陳列及宮崎婦人會ノ主催セル慈善市等アリ初等教育部ハ縣下小學校兒童ノ成績品、中等教育部ハ縣下師範學校中學校高等女學校生徒ノ成績品、實業教育部ハ縣下農工商各學校及實業補習學校生徒ノ成績品、第一參考品部ハ縣内公私立學校職員ノ考案工夫ニ成レル出品物、第二參考品部ハ各府縣各種學校職員ノ考案工夫ニ成レル製作品及其生徒ノ成績品ヲ陳列セリ而シテ出品物ハ初等教育中等教育實業教育ノ三部ハ主トシテ兒童生徒ノ作文、習字、圖畫、地理、手工、裁縫及特別ノ製作品ニシテ其數初等教育部三

萬八千百十點、中等教育部二千三百三十一點、實業教育部二千三百四十六點ナリ而シテ參考品ハ教

授細目、管理、訓練ニ關スル規定、表簿様式、器具、器械、標本、圖案各科教授ノ參考品、圖書、寫眞、學校基本財産、學林、學校園等ニ關スル經理方法、其成績、學校以外ニ於ケル各種教育ノ方法及其成績等ニシテ其出品數第一部三千二百九十八點、第二部六千三百四十點、通計實ニ五萬二千四百二十五點ノ多キニ達シ且ツ戰利品及個人ノ出品亦千八百八十點ニ及ヘリ

御下賜

午後五時永井知事ヲ御旅館ニ召サレ今回行啓ニ關スル諸般ノ事務ニ盡力セルヲ御嘉納アラセラレ畏クモ知事ヲ始メ一同ヘ左ノ通り金品ヲ下シ賜ハリタリ依リテ知事ハ直ニ關係者ヲ事務所ニ招集シ 御思召ノ次第ヲ懇諭シ之ヲ傳達セリ何レモ 台旨ノ厚キニ感泣シ各自御旅館ニ伺候シテ御禮申上ケタリ

酒饌料若 干 宮崎縣知事 永井環
白縮緬壹 正

酒饌料若 干 宮崎縣事務官 柿沼竹雄
袴地壹 反

酒饌料若 干 宮崎縣事務官 三橋得三
袴地壹 反

酒饌料若 干 宮崎縣事務官 夏秋十郎
袴地壹 反

酒饌料若 干 宮崎縣技師 保科圭三郎
袴地壹 反

酒饌料若 干 宮崎縣技師 渡部豐
袴地壹 反

酒饌料若 干 宮崎縣技師 淺井熊作
袴地壹 反

白斜子壹

反

酒饌料若

袴地壹

宮崎縣警視陣軍吉

酒饌料若

白斜子壹

反

宮崎縣水產試驗場技師 中村平八

白斜子壹

酒肴料若

反

宮崎縣林業技師 占部猪三郎

酒饌料若

袴地壹

干

宮崎縣屬技手警部以下關係者

酒肴料若

袴地壹

反

宮崎縣宮崎郡長 塚本常彌

宮崎縣宮崎郡書記以下關係者

酒肴料若

干

宮崎縣 宮崎郡宮崎町

酒肴料若

干

宮崎縣宮崎郡宮崎町長以下關係者

酒肴料若

干

宮崎縣宮崎郡赤江村長以下關係者

白斜子壹

反

宮崎縣宮崎郡青島村長以下關係者

酒肴料若

干

宮崎縣南那珂郡長 多田信

酒肴料若

干

官幣大社鵜戶神社事務所

酒肴料若

干

宮崎縣南那珂郡書記以下關係者

酒肴料若

干

宮崎縣南那珂郡油津町長以下關係者

酒肴料若

干

宮崎縣南那珂郡鵜戶村長以下關係者

酒肴料若

干

牛乳納人 北岡藤三郎

酒肴料若

干

豫備牛乳納人 河野與市

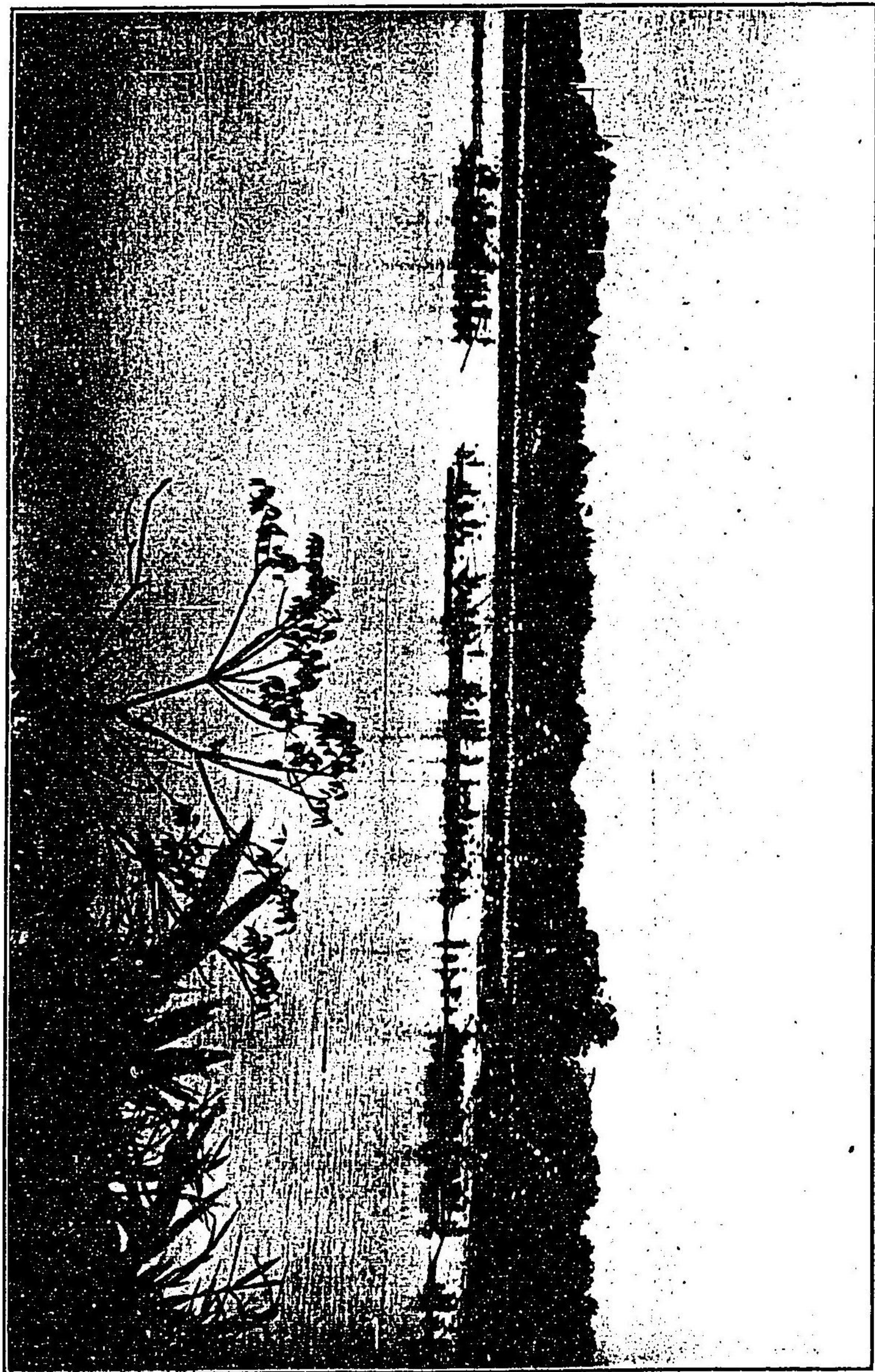
酒肴料若

干

豫備御料車夫三名

師範學校附屬小學校、宮崎郡宮崎、大淀、大宮、穂、赤江ノ各町村小學校、東諸郡高岡、穆佐、倉岡、木脇、本莊、八代ノ各村小學校及兒湯郡高鍋、上江、新田、富田、上穂北、下穂北、三納、三財、都於郡都農、美々津、木城ノ各町村小學校職員三百四十名、兒童七千〇六十一名計七千四百〇一名ハ三日正午ヲ期シ縣廳前ノ廣馬場ニ參集シ各小國旗ヲ携ヘ總指揮者ノ指揮ニ依リ四列トナリテ隊伍整然橋通、橋橋ヲ經河岸ヲ下リ御旅館對岸ニ到リ八列橫隊ヲ作り御旅館ニ面シテ國旗ヲ高ク擧ケツ、萬歲ヲ三唱セリ終リテ左ヘ轉同シ同路筋ヲ通り縣廳前ニ歸來シ尙ホ教育品展覽會ヘ行啓ヲ奉迎センカタメ御道筋ニ沿ヒテ進ミ先頭ハ宮崎俱樂部前ニ到リ後尾ハ宮崎^{高等}小學校前ニ終レリ

午後零時半橋橋ヨリ約四丁下流ナル上野町日州銀行裏手ノ河岸ニ六十艘ノ川船集合シタリ是レ曩ニ諸學校ノ協議ニ依リ船行列ヲ企テタルモノニシテ小船ニハ一本、大船ニハ二本ノ「マスト」ヲ建テ之ニ紐ヲ張リテ萬國旗ヲ吊シ滿艦飾ニ擬シ外ニ端艇三艘ヲ加ヘテ傳令ノ任ニ當ラシム乘組人員宮崎^{高等}小學校二百餘名、師範學校九十餘名、宮崎、都城、延岡三中學校九十餘名、縣立農學校五十餘名、兒湯郡立農學校二十名、計約五百名中央ニ旗艦ヲ置キ樂隊及各學校長等ヲ乘セ師範學校長總指令トナリ宮崎^{高等}小學校長ハ先頭端艇ニ乘リ込ミ專ラ指揮ノ任ニ當ル斯クテ御旅館前ノ中流ニ到リ各船舳ヲ揃ヘテ整列シ恰モ前記國旗行列隊カ對岸ニ於テ萬歲ヲ唱フルト同時ニ萬歲ヲ三唱シ終リテ順次舊位置ニ



列行船及列行旗國徒生校學

引揚ケ午後二時解散シタリ

午後七時ヨリ宮崎町民提灯行列ヲナシタリ總指揮者ハ宮崎町長日高傳ニシテ第一區ヨリ第二十七區迄ノ同町内有志者千五百人町役場前ニ勢揃ヲナシ各自持參ノ提灯ニ點火シ各區長中隊長トシテ指揮シ靜靜ト練リ出シ旭道ヲ西ニ國道筋ニ出テ橋橋ヲ渡リ中村町ヲ南ニ向ケ城ヶ崎通ニ出テ舊中村町競馬場北詰ヨリ河岸ニ出テ岸ニ沿フテ御旅館對岸ニ一同整列シ總指揮者ノ發聲ニ從ヒ萬歳ヲ三唱シ順次歸路ニ就キタリ

餘 興

午後七時四十分木材商總代ノ寄附ニカ、ル大篝火十箇ヲ御旅館對岸ノ東ニ沿ヒ點火シタリ火光天ヲ焦シ其附近悉ク白晝ノ觀アリ

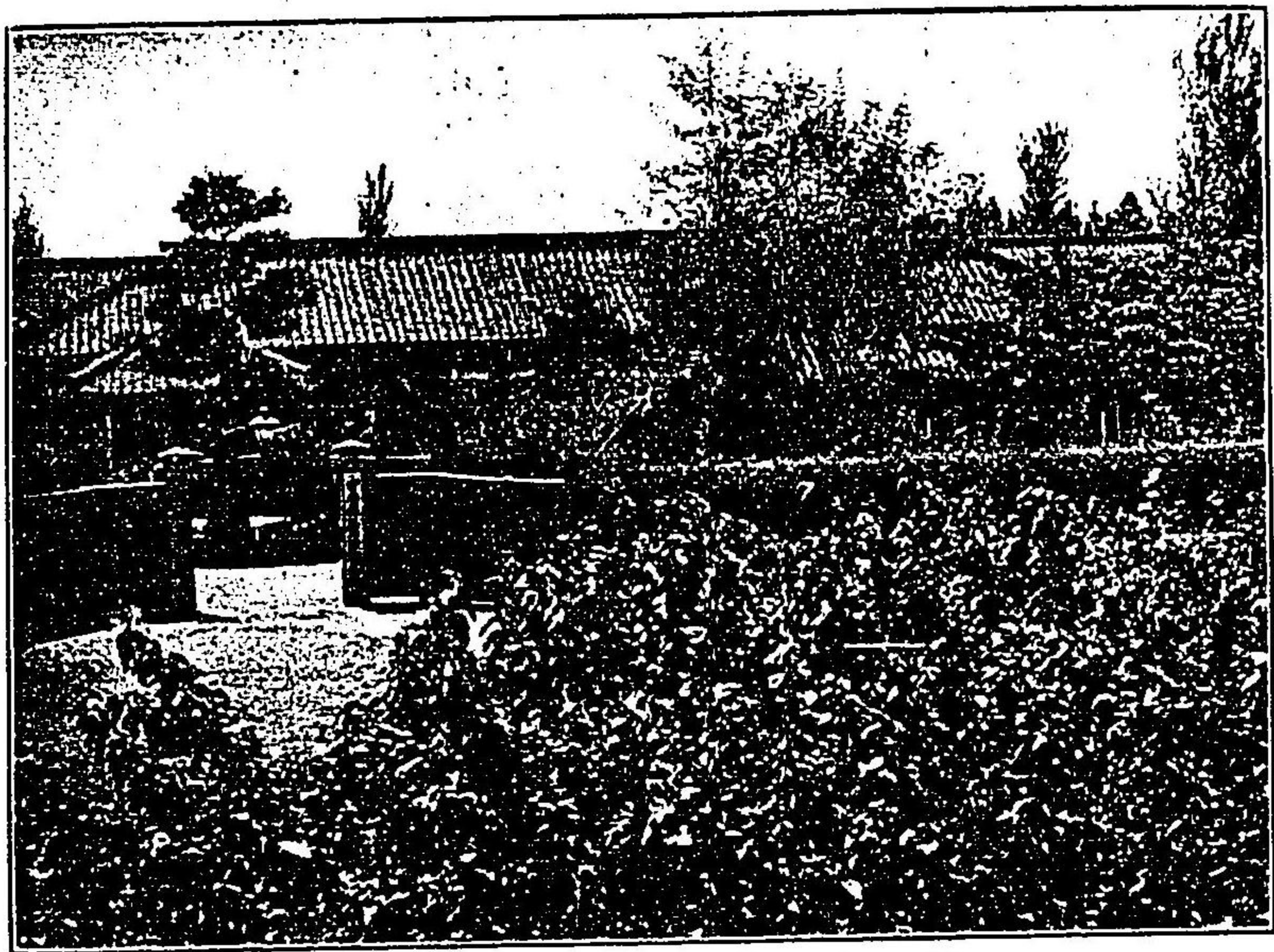
十一月四日

農 學 校

夜來ノ雨全ク收マリ雲漸ク散シテ曉天氣晴朗學校生徒兒童 官民諸團體及一般奉送者未明ヨリ豫定ノ位置ニ整列シテ御通過ヲ待チ奉リ官公吏及有位帶動者等

ハ御還啓ニ付御機嫌伺トシテ御旅館ニ伺候セリ聽テ午前八時御出發ノ定刻トナルヤ 殿下ニハ御氣色殊ニ麗ハシク陸軍少將ノ御軍服ニ大勳位ノ勳章ヲ御佩用アラセラレ靜ニ御車ニ召サセ徐ニ正門ヲ出テサセ給ヒ正門外ニ奉拜セル行啓事務關係委員等ニ舉手ノ御會釋ヲ賜ヒタリ御出發ノ合圖トシテ煙火五發ヲ打チ揚ク奉送者齊シク容儀ヲ整ヘ襟ヲ正ス御列ハ八幡馬場通、旭通、縣廳馬場、縣廳前通ヨリ國道ニ出テ橘橋ヲ渡リ中村町ヨリ左ニ縣立農學校ニ行啓アラセラル無數ノ團體及一般ノ民衆沿道ノ兩側ニ堵ヲ作りテ奉送セリ

農學校ニ於テハ生徒ハ門前ヨリ街道ニ至ル間ノ東側、校長以下ノ職員ハ門内ノ東側ニ整列奉迎シタリ午前八時二十分御著校長橘彪四郎御先導御座所ニ入ラセラル御休憩ノ間學校概覽、學校統計表等ヲ捧呈シ又側ニ陳列セル生徒ノ成績品等御覽アリ知事ヲ經テ 御寫眞ヲ下賜セラル夫レヨリ前夜假設シタル六十間ノ廊下傳ヒニ實習地ニ臨マセラレ農科生ノ根菜類ノ除草、甘藷ノ收穫、莢豆栽培等



(一 共) 校 學 農 立 縣



(二 共) 上 同

御巡覽種種ノ御下問アリ校長逐一拜答ス家畜運動場ノ側ニ御成ノ際濠洲牝馬、
雜種仔馬、牝牛及犢等放牧シアルニ御眼ヲ注カセラレ御下問アリ校長ハ日露戰
役ノ際鹵獲セシ牝馬ニシテ農商務省ヨリ貸下ヲ受ケ本校ニテ仔馬ヲ分娩シタル
モノナル旨御答申上ケタリ

聽テ還御仰出サル時ニ八時四十分ナリ當日本校ニテ紅茶一瓶、蕃茄「ジャム」二
瓶ヲ御採納アリタルカ此品ハ船中ニテ御使用アラセラル旨洩レ聞ケリ
農學校御發車城ヶ崎町ヨリ赤江、本郷、郡司分、木崎、島山ヲ經テ青島ニ向ハ
セ給フ御途上遠山ノ緑ヲ賞シ近水ノ清ヲ嘉シ給ヒツ、御機嫌殊ニ麗ハシク午前
九時五十五分青島ニ御著御休憩所ニ入ラセラル

御休憩所前ノ陳列所ニハ農産物及柑橘類ヲ陳列シ函生簀ニハ鯛、鮫、龍蝦、鱈、鱈、「ハス」、赤海龜
等十五六種四十餘尾ヲ放養セリ

殿下ハ間モナク陳列品竝ニ函生簀ヲ御覽遊ハサレ收養魚類ノ名稱、用途等精細

ナル御下問アリ水産試験場長中村平八奉答ス是ヨリ先キ當村漁業組合ハ漁夫數十名ヲシテ午前七時ニ地曳網ヲ下サシメ御著後間モナク之レヲ曳キ上ケタルニ鱈、鯖、小鱈「グイチ」「グチ」等ノ漁獲アリ台命ニ依リ漁獲物ヲ大盥ニ入レ御前ニ運ヒシニ 殿下ハ直チニ立チ出テ給ヒ「此魚は何と言ふか、食し得るや」「ホシザメの如きもの、調理は如何にするか」ナト御下問アリ「グチ」ニ就テハ「ぐち、ぐち」ト幾度モ御繰リ返シ遊ハサレ「さうか」ト御會得ノ御言葉アリ折シモ「グイチ」(鰯ノ未成魚)小鱈ノ二魚潑瀾トシテ跳ネ上リ飛沫躍テ玉服ニ濺ク 殿下左右ヲ顧ミ茫然トシテ笑ハセ給フ雜魚ハ台命ニ依リテ之ヲ内海ニ送レリ

午前十時二十分御發車折生迫町ニ集合セル村民等ノ奉送ヲ受ケサセラレ御車ハ次第ニ勾配高キ内海越ノ坂路ニ入ル坂盡キテ海岸ニ出ツレハ天空海闊水天一碧心神頓ニ清快ヲ覺ユ巖ニ碎クル濤ノ聲、風ニ調フル松ノ響ニ耳ヲ澄マセ給ヒツ臆テ内海村民ノ熱誠ナル奉送ヲ受ケサセラレ新開ノ行啓記念道ヲ過キ十一時十

分無事内海御休憩所ニ入御、御晝餐ヲ召サル御休憩中奉送ノタメ扈從セシ伯爵島津忠亮、子爵内藤政學、本縣選出貴衆兩院議員代表者貴族院議員日高榮三郎、本縣會議長若林駒之輔、同副議長磯貝大二郎、本縣事務官三橋得三、同柿沼竹雄、同夏秋十郎ニ對シ特ニ拜謁仰セ付ケラレ又御休憩所タル内海尋常小學校ニハ 御寫眞ヲ下賜セラレタリ

御 乘 艦

此日御出迎ヒトシテ午前七時第一驅逐艦隊ノ響、如月、初霜、神風ノ四驅逐艦ハ入港シ在港ノ船舶又滿船飾ヲ爲シテ敬意ヲ捧ケタリ斯クテ 殿下ハ正午十二時御休憩所ヲ出テサセ給ヒ宮崎郡長ノ御先導ニテ供奉員竝ニ島津伯爵、内藤子爵等ヲ從ヘ給ヒ靜靜ト玉步ヲ棧橋ニ移サセラル棧橋側ニテ本縣事務官、貴族院議員、縣會議長、同副議長等奉送ス棧橋ヨリ「ランチ」ニ御乘リ遊ハサレ青疊ノ如

キ港内ヲ漕カセ給ヒツ、午後零時十分御召艦響ニ御移乗アラセラル此時四驅逐艦トモ登舷ノ禮ヲ爲セリ斯クテ御荷物ヲ積ミ終ルト共ニ各艦錨ヲ拔キ如月ヲ先導トシ次ニ御召艦次ニ初霜、神風順ヲ追ヒ列ヲ正シテ午後零時十五分御出發油津港ニ向ハセラル奉送ノ官民ハ御召艦ノ影全ク見エサルニ至ル迄海濱ニテ御見送り申上ケタリ永井知事、警務長夏秋十郎ハ神風ニ便乗ヲ許サレタリ

油津御發艦

十月三十日油津御著艦ヨリ十一月四日御發艦ニ至ル五日間ハ十月三十一日驅逐艦ノ内海港ニ回航シタルノ外各艦艇ハ同港ニ碇泊シタルヲ以テ油津町、大堂津、目井津ヲ始メ俵肥町及其附近ニ於テハ專ラ乗組員上陸ノ歡待ニ誠意ヲ注キ或ハ神社境内學校等ニ休憩所ヲ設ケ或ハ浴室ヲ有スル家ニハ浴場ヲ備ヘタレハ供奉驅逐艦ノ内海港ヨリ歸航後各艦艇ヨリ三三五伍上陸シ油津市街ヲ散步スルモノ又ハ遠ク俵肥町方面ヲ巡覽スルモノアリ郡内委員ハ部署ヲ定メテ各所ニ出張シ案内、説明並ニ接待ニ從ヒタリ

十一月三日各艦ハ正午百一發ノ祝砲ヲ以テ 天長ノ佳節ヲ奉賀シ艦内ニハ祝宴ヲ開キ殊ニ餘興トシ

テ鹿島ハ角力、香取ハ芝居、出雲ハ擊劍ヲ催シタリト云フ油津町ニ於テハ此日ヲ以テ村社吾平津神社ノ祭典ヲ行ヒタレハ一層ノ盛況ヲ呈シ千載一遇ノ好機ヲ歡喜シ何レモ和氣洋洋タリ

碇泊艦隊ニ於テハ三十一日以後御召艦香取ヲ除クノ外一般拜觀ヲ許シタルヲ以テ日日ノ拜觀者遠近ヨリ蝟集シ特ニ十一月三日業ヲ休メル爲メ其數ニ達ス各艦共ニ懇切ナル説明ヲナシツ、艦内ヲ導キ拜觀者ニ満足ヲ與ヘタリ

十一月四日ハ御出發ノ當日ナルヲ以テ郡長以下官公吏ハ早朝油津町ニ出張各委員ヲ督シテ奉送ノ準備ヲ整ヘ附近ノ町村ハ老幼ヲ舉ケテ參集シタルモノ其數一萬正午ニ至リ伊東子爵來著セリ

午後零時十五分内海御發艦ノ報ニ接スルト共ニ南那珂郡長、伊東子爵ハ蓬萊丸ニ搭シテ午後一時港口ニ向ヒ奉迎ス時ニ御召艦一隊ノ煤煙ハ鵜戸沖ニ揚カリ漸次港口ニ近ツキ午後二時三十分航路ヲ裸着、七ツ着ノ間ニ採リ徐ニ港内ニ進航直ニ軍艦香取ニ御移乗アラセラル茲ニ於テ司令長官其他各艦長時ヲ移サス御召艦ニ伺候シ同時ニ永井知事、警察部長、伊東子爵、南那珂郡長等引續キ伺候シタリ既ニシテ御發艦ノ刻ニ迫ルヤ知事以下奉送ノ諸員ハ艦ヲ退キ蓬萊丸ニ搭乘シテ

雄節岬ノ西ニ到リ奉送ス

一五二

有明灣ニ碇泊セシ艦隊ハ午後四時三十分港外ニ現ハレ港口正東ニ徐行整列シテ御發艦ヲ待チ奉ル午後五時ニ至リ港内ヨリ驅逐艦先ツ出港シ續テ旗艦鹿島ヲ先頭ニ御召艦香取中央ニ出雲殿トナリ威風嚴カニ舳艫相啣ミテ進行シ港外ノ艦隊之ニ從フ港頭ニ於テハ煙火ヲ打揚ケ參集セル幾萬ノ民衆ハ靜肅敬意ヲ表シテ奉送ノ情禁セサルモノ、如ク港口ニ奉送セル蓬萊丸ハ一聲汽笛ノ敬意ヲ表シ知事以下諸員ハ最敬禮ヲ以テ御召艦ノ御通過ヲ送り奉リタリ

海上浪靜カニシテ檣旗斜陽ニ映シ港外ニ於テ陣形ヲ整ヘタル艦隊ハ漸次速力ヲ強クシ艦迹ノ印スル所蜿蜒トシテ遠ク消エス黑煙濛濛中空ニ長ヘナリ嗚呼鶴駕ヲ仰ク茲ニ五日寸草尺木ノ微ト雖悉ク湛タル其靈澤ニ潤ハサルハナカリキ
十一月七日獻納品及御買上品ヲ東宮職ヘ納付シ次テ十六日知事御禮ノ爲メ上京同月二十九日歸廳シタリ

雜 錄

下 檢 分

六月十三日永井知事ハ道路視察ノ爲メ技師宮崎郡長等ヲ從ヘ都城ヲ經テ鹿兒島ニ出張シ十四日同地著十九日歸廳縣參事會員ヲ官邸ニ招キ協議スル所アリ同夜十時事務官柳沼竹雄東京出發歸廳ノ電報アリタレトモ更ニ滯京ヲ電命シ翌二十日事務官ニ打電シテ曰ク 皇太子殿下鹿兒島縣行啓ノ台旨アルヲ聞ク其時期恰モ宮崎宮大祭舉行ニ會スルヲ幸トシ縣民舉テ 殿下ノ行啓ヲ熱望ス本官ハ責任上御通路ノ御安全ヲ慮リ鹿兒島縣ヘ出張ノ序ヲ以テ一應ノ視察ヲ遂ケタルニ多少ノ修補ヲ加フレハ差支ナキヲ認ム御旅館其他出來得ル限りノ準備ヲ施シテ以テ行啓ヲ仰キ奉ラント欲ス貴官ハ本官ニ代リ縣民熱誠ノ有ル所ヲ東宮職ニ面陳シ且宮内省ニ出頭シテ懇請シ奉リ速ニ下檢分ノ官吏派遣セラル、様取計ハルヘシ云云

六月二十一日事務官宮内省東宮職ニ出頭知事ヨリノ電命ヲ陳述シ茲ニ錦小路主事下檢分ノ爲メ來縣ノ事ヲ確メタリ

同日更ニ主事ノ檢分順路並ニ來縣確定ノ日時ヲ聞クヘキ旨事務官ニ打電シタリ返電ニ曰ク本月二十四日東京出發山口大分ヲ經テ來月一二日頃細島著ノ豫定馬關著ノ上縣廳ニ打電スヘシト

六月二十四日東宮主事ヨリ知事ニ電報アリ大淀川水深幾何ナルヤ水雷艇(叱水六尺)通行差支ノ有無取調返事アレ尙其結果錦小路主事著ノ上打合アリタシト

知事ハ直ニ之カ調査ヲ命シ大淀川ハ川口幅約十五間水深五六尺極メテ淺ク川口ヨリ橋橋ニ至ル間幅二百間水深約三四尺時ニ水勢ニ依リ變更スルニ付實地測量次第通知スヘキ旨返電シ二十六日ニ至リ實測圖ヲ添ヘ水雷艇ノ通行自由ナラサル旨東宮主事ヘ回答ス

六月二十八日知事ハ細島ニ出張歸縣ノ途ニアル事務官梯沼竹雄ト打合セヲナス

六月二十九日海軍次官ヨリノ來牒ニ曰ク 皇太子殿下四國九州方面ヘ行啓可被爲在御内定ニ候處宮崎町御視察ノ節御乘艦ノ碇泊豫定地タル油津ヨリ同町ヘノ陸路ハ交通不便ニ付同碇泊地ヨリ驅逐艦ニテ内海又ハ折生追ノ内海陸兩方面ニ對シ至便ナル港灣ヘ御回航夫レヨリ陸路同町ヘ成ラセラル、御豫定ニ候條其府ヨリ驅逐艦一隻ヲ派遣シ右兩灣ノ狀況ハ驅逐艦ノ入港ニ適スルヤ否ヤ並ニ陸上交通ノ便否等實視セシメ至急報告取計ヘシ追テ錦小路東宮主事下檢分トシテ東京發七月三日油津ヘ向ケ別府出灣ノ豫定ニ付驅逐艦ハ同灣ニ寄港シ主事ヲ便乗セシメ油津ニ回航諸事打合ノ上調査ニ著手スヘク主事下檢分ノ日割ハ三日別府發油津著、四日油津發宮崎著、五日六日宮崎滞在、七日宮崎發八日鹿兒島著ノ豫定ナル旨海軍大臣ヨリ吳鎮守府司令長官ニ訓令アリシト依テ事務官ハ細島ヨリ大分縣ニ出張ス

六月三十日知事細島發歸縣同夜別府發事務官ヨリノ電報ニ曰ク 殿下ハ鹿島ノ如キ大艦ニ召サセラレ

他ノ大艦又之ニ供奉シ一ノ艦隊ヲ爲スヘキニ依リ艦隊ハ油津ニ碇泊シ可成便宜ノ處ニ御上陸相成ル計盡ニ就キ先ツ油津ニ至ル必要アリ晚クモ三日ニハ油津著ノ豫定ニテ四日朝内海、折生追、赤江港ヲ調査ス此爲ノ各所共十人乗位ノ舢舨及附近海模様ヲ熟知スル漁夫準備セラレ度一行ニ黒水海軍大佐アリト

七月一日知事ハ内海港ヘ出張ス

七月二日夜事務官ヨリノ報ニ明日午前六時半驅逐艦卯月ニテ出發一應赤江港ヲ調査セラル、ニヨリ午後二時迄ニ河口ニ十人乗ノ傳馬船ト水路ヲ熟知スル漁夫船頭ヲ準備シ置カレ度シト

七月三日知事、警務長、警視、宮崎郡長、宮崎町長等赤江港ニ到リ漁船ニ搭シ約一哩ノ沖ニ出ツレハ卯月ハ午後二時四十分河口沖ニ著ス一行ハ東宮主事子爵錦小路在明、東宮武官黒水公三郎、東宮屬後藤武三郎、同加藤堯敬及便乗ノ事務官ニシテ港口附近ノ測量海圖ヲ出シ猶船夫漁夫等ニ詳細ヲ聞キ打合ヲナシ凡一時間碇泊シ二回錨地ヲ變更シテ海深ノ調査ヲナシ油津港ニ向ヒ六時油津ニ著ス知事、警務長、警視、郡長等ハ赤江港上陸後内海ニ出張ス

七月四日東宮主事一行ハ午前七時油津拔錨鵜戸崎ニ寄航鵜戸神宮ニ參拜同地ヲ視察ス鵜戸ニハ南那珂郡長、鵜戸村長等之ヲ迎ヘタリ午前十時内海港著埠頭ニハ人ノ山ヲ築キ内海折生追ハ各戸國旗ヲ掲ケテ歡迎ノ意ヲ表ス知事ハ直チニ卯月ヲ訪ヒ主事一行ト共ニ港内ノ測量、上陸地點並ニ市内ノ視察ヲ了

シ次テ折生道ニ到リ附近ノ視察ヲナシ宮崎ニ向フ縣參事會員、銀行員其他有志者多數途中ニ出迎ヘ午後四時三十分神田橋旅館ニ著ス

七月五日卯月艦長以下出發歸艦シ東宮主事一行ハ縣廳ニ於テ行啓ニ關シ大體ノ方針及地方廳ノ心得ヘキ事項ニ付協議會ヲ開ク其大要左ノ如シ

當秋ノ行啓ハ過般山陰道行啓ト異リ御見學ノ御目的ヲ以テ各地ノ風土文物其他重要ナル事項ニ就キ親シク御視察遊ハサル、思召ナルヲ以テ地方官民ニ於テ此主意ヲ奉體シ諸事修飾ヲ加ヘス平素ノ狀態ヲ御覽ニ供スル様心懸ケラレ度隨テ多大ノ勞力費用ヲ要スルカ如キ設備裝飾ハ努メテ之ヲ避ケ總テ質素著實ヲ旨トセラレタシトノ方針ヲ主事ヨリ述ヘ次テ御通行筋ニ當ル道路橋梁ノ修繕スヘキ程度御旅館所在地及行啓沿道ノ傳染病流行病等ノ有無報告、御飲料水、乳牛ノ選擇、御食品原料ノ選擇、奉送迎、舟車雇上、外泊宿舍、警戒、出張所、拜謁、伺候、器具調達、獻上品ノ制限等ニ就キ打合ヲ爲セリ

午後紫明館及高等女學校ヲ視察シ宮崎宮參拜ノ上歸館シ更ニ郡立職業學校、師範學校、中學校、勸業物品陳列場内ナル共進會場ヲ視察ス

七月六日農學校、宮崎俱樂部ヲ視察ス

七月七日東宮主事ハ都城ヲ經テ鹿兒島ニ、黒水武官ハ内海ヨリ卯月ニ搭シテ佐伯、三津ヶ濱ヲ經テ徳島ニ向フ事トナリ正午出發ス縣參事會員宮崎町大淀村ノ官民有志者數十名見送ヲナス

十月五日朝吉松海軍少將ノ率キル軍艦對馬外驅逐艦九隻ハ行啓ノ際ニ於ケル御召艦及供奉艦隊ノ航路並ニ錨地ヲ確定セン爲メ之カ檢分トシテ有明灣ヲ經テ油津港ニ來著ス當時風浪殊ニ高シ乃チ同港碇泊翌六日午前十一時三十分如月、響、神風ノ三驅逐艦ヲ以テ内海港ニ臨ミ港内ヲ檢分ス案内ノ爲メ出張セル内務部長梯沼竹雄、警察部長夏秋十郎等少將ノ一行ニ會シ諸般ノ打合ヲナス午後二時少將ハ油津ニ引返ヘシ午後五時油津出帆大分縣ニ向ヒタリ

行啓御發著割 (四十年十月三日官報)

皇太子殿下韓國御渡航及九州四國行啓御發著割左ノ如シ但シ天候ニ依リ御順延ノコトアルヘシ且ツ中國行啓ノ儀今同ハ御都合ニ依リ御見合ニ相成リタリ

十月十日

午前十時

東宮御所御出門

同 十時二十五分

新橋停車場御發車

臨時汽車

午後二時四十六分

御泊 静岡御用邸

静岡停車場御著車

十月十一日

午前七時 十分

静岡御用邸御出門

同 七時二十分

静岡停車場御發車

汽臨車時

午後四時五十四分

舞子停車場御著車

御泊 有栖川宮別邸

同 十二日

午前八時二十分

舞子御旅館御出門

同 八時三十分

舞子停車場御發車

汽臨車時

午後四時二十五分

宇品停車場御著車

御 乘 艦

香軍取艦

御假泊

同 十三日

午前

宇品港御發艦

同 十四日

同 十五日

御航海

同 十六日

午後

韓國仁川港御著艦

御 上 陸

京城御著

御泊 統監官邸

同 十七日

同 十八日

同 十九日

京城 御滞在

同 二十日

午前

京城御發

一六〇

正午

御乘艦

十月二十一日

仁川港御發艦

御航海

同二十一日

午前

佐世保軍港御著艦

御假泊

同二十三日

御假泊

同二十四日

午前

御上陸

進水式御臨場終了御乘艦

午後

御發艦

午後

長崎港御著艦

御假泊

同二十五日

午前

長崎御上陸

午後

御乘艦

御發艦

同二十一日

午前

鹿兒島灣御著艦

午後

御上陸

御泊 鹿兒島御旅館(磯)公爵島津忠重別邸

同二十七日

同二十八日

鹿兒島御滞在

同二十九日

一六一

午後

鹿兒島御旅館御出門

御乘艦

御假泊

十月三十日

午前

鹿兒島灣御發艦

午後

油津港(日向)御著艦

御假泊

同 三十一日

午前

油津港御發艦

內海港(日向)御著艦

內海御上陸

午後

同所御發

御泊 宮崎御旅館(紫明館)

十一月一日

同 二日

同 三日

宮崎御滞在

同 四日

午前

宮崎御旅館御出門

正午

內海御著

御乘艦

午後

油津港御發艦

同 五日

午前

大分港御著艦

午後

御上陸

御泊 大分御旅館(大分縣廳)

同 六日

大分御滞在

十一月七日

午前

大分御旅館御出門

午後

御乘艦

同 八日

御發艦

午前

野見浦(土佐)御著艦

須崎町(土佐)御上陸

同所御發

御泊

高知御旅館(侯爵山内豊景別邸)

同 九日

同 十日

同 十一日

同 十二日

高知御滞在

同 十三日

午前

高知御旅館御出門

午後

須崎町御著

御航海

御乘艦

同 十四日

野見浦御發艦

午前

横濱港御著艦

同 九時三十分

税關波止場ヨリ御上陸

同 十時五分

横濱停車場御發車

汽臨車時

還御

新橋停車場御著車

第一艦隊奉送迎次第

甲隊第二六〇號ノ五五

東宮殿下油津港ニ於テ内海 御上陸及 御歸艦續テ大分港ニ 御回航 御上陸奉送奉迎次第左ノ通定ム

明治四十年十月二十七日

第一艦隊司令長官 男爵 有馬 新一

東宮殿下油津港ニ於テ内海 御上陸及 御歸艦續テ大分港ニ 御回航 御上陸奉送奉迎次第 油津港 御著艦當日 十月三十日

一 午前六時鹿兒島港 御發艦午後二時油津港御著艦 本職奉伺ス

二 御著艦後 殿下内海 御上陸用舢舨トシテ香取ヨリ傳馬船一隻ヲ準備シ驅逐艦如月ニ差遣スヘシ但シ該傳馬船ニハ香取ヨリ諸員ヲ乗船セシムヘシ

指揮 中少尉 一名

艇員 下士卒 四名

服裝 軍服帶勳

右指揮以下ハ内海ニ一泊シ翌日歸艦スルモノトス

三 御著艦後驅逐艦如月ハ先發供奉員並ニ御荷物ヲ搭載シ香取傳馬船ヲ曳航内海ニ回航終テ油津港ニ歸泊

四 當夜艦内 御泊

内海 御上陸當日 十月三十一日

五 午前七時總員軍服帶勳 但シ 御召驅逐艦ニテ油津港 御發艦後旗信ニ依リ服裝平常ノ通

六 鶴戶崎 御上陸用舢舨トシテ鹿島ヨリ傳馬船一隻ヲ準備シ午前六時三十分迄ニ驅逐艦如月ニ差遣スヘシ其ノ乗員及服裝ハ第二號ニ同シ但シ指揮以下乗員ハ鹿島ヨリ出ス

七 驅逐艦如月ハ先發供奉員並ニ 御荷物ヲ搭載シ午前七時出港鹿島傳馬船ヲ鶴戶崎ニ曳航シ終ツテ内海ニ回航所屬驅逐隊ニ合同スヘシ

八 午前 時驅逐艦ニ 御召換直チニ鶴戶崎ニ向ケ 御發艦御召換ニ際シ 御召艇及供奉艇ヲ左ノ通指定ス

御召艇 香取艦載水雷艇

供奉艇 出雲艦載水雷艇

九 御召驅逐艦其ノ他ノ指定及海上序列左ノ如シ

御先導驅逐艦 神風

御召驅逐艦 響

供奉驅逐艦 初霜

但シ御先導驅逐艦ニハ參謀長及參謀一名ヲ乗艦セシメ本職ハ 御召驅逐艦ニ在テ供奉ス
十 驅逐艦ニ 御召換並ニ 御召驅逐艦ニテ御發艦ノ際ニ於ケル敬禮ハ長崎ニ於ケルモノニ準ス
十一 鵜戸崎 御著艦鵜戸神宮 御參拜終テ直チニ御發内海ヘ 御同航 御上陸
本職ハ時宜ニ依リ宮崎迄供奉ス

十二 内海 御上陸後 第二驅逐隊ハ便宜油津港ニ歸泊ス但シ内海及鵜戸崎ニ在ル 御上陸用舢舨
ヲ油津港ニ曳航シ各所屬艦ニ歸投セシムヘシ

御歸艦當日 十一月四日

十三 第二驅逐隊ハ便宜油津港出港當日正午迄内海ニ到達スヘシ但シ 御乗艦用舢舨ハ鹿島ニ於テ
準備シ第二驅逐隊之レヲ曳航スヘシ

十四 午後 時軍服帶勳但シ 御歸艦後旗信ニ依リ服装平常ノ通

十五 内海ニ於テ 御召驅逐艦ニ 御乗艦後第九號序列ニ依リ直チニ出港油津港ニ於テ 御歸艦更
ニ午後五時大分港ニ向ケ 御發艦アレセラル

十六 驅逐艦ニテ 御入港並ニ 御歸艦ノ際ニ於ケル敬禮ハ長崎ニ於ケルモノニ同シ

大分港 御入港當日 十月五日

十七 午前七時 御著艦

御著艦後時機ヲ見計ヒ本職奉伺ス

十八 午後旗信ニ依リ總員軍服帶勳

十九 御上陸一時間前第一小隊各艦ハ左記ニ依リ傳馬船一隻宛ヲ大分港防波堤内ニ差遣シ置クヘシ

御召舢舨用 香取傳馬船一隻

供奉員舢舨用 鹿島出雲傳馬船各一隻

二十 御上陸ニ際シ本職 御先導シ司令官各艦長供奉ス

通常禮服 帶勳

二十一 御上陸ニ際シ 御召艇其ノ他ノ指定及海上序列左ノ如シ

御先導艇 鹿島艦載水雷艇

御召艇 香取艦載水雷艇

供奉員乗用艇 香取艦載水雷艇

司令官乗用艇 淺間艦載水雷艇

香取艦長乗用艇 鹿島艦載水雷艇
 磐手艦長乗用艇 磐手艦載水雷艇
 常磐問艦長乗用艇 常磐艦載水雷艇
 對島艦長乗用艇 對島汽艇

二十二 御通過ノ際ニ於ケル敬禮ハ長崎ニ同シ

二十三 御上陸後本職 御旅館ニ奉伺ス

行啓事務ノ處理

行啓事務ノ處理ハ特ニ周密鄭重ナル取扱ヲ要シ諸般ノ計畫準備等取テ遺漏ナキヲ期セサルヘカラス故ニ東宮主事ノ下檢分ニ際シ七月十日庶務、御旅館、用度、奉迎送、警察、衛生、會計等ノ主任者ヲ命シ委曲協議ヲナシ專ラ準備事務處辨ノ任ニ當ラシメタリ而シテ事務ノ進行ニ伴ヒ吏員ヲ増加スルノ必要アルヲ以テ委員組織トナシ且ツ事務ノ統一ト連絡トヲ保ツニ注意シ事務取扱規定並ニ諸般心得等ヨリ御道筋圖表等具體的ニ精密調査ヲ遂ケ八月十日之ヲ印刷シテ係員ニ配付シ又時時委員ヲ實地ニ派遣シ要務ヲ辨理セシメタリ尙行啓ノ際ハ特ニ敏活ヲ要スルヲ以テ假事務所ヲ御旅館西隣ニ新築シテ御著駕前二日ニ移轉シ且郵便局出張所ヲ事務所内ニ設ケ又警察電話ヲ架設シ御旅館、縣廳供奉員旅舎及内海間ヲ連結シタリ其規程及事務員等ハ左ノ如シ

行啓事務取扱順序

- 第一條 行啓ニ關スル事務ヲ處理スル爲メ委員ヲ置ク
- 第二條 委員ハ縣ノ官吏吏員其他ノ職員中ニ就キ知事之ヲ命ス
- 第三條 行啓事務ヲ左ノ二部ニ分チ各員ヲ分屬セシム

一 總務部

一 警務部

一七二

第四條 各部ニ部長ヲ置キ總務部長ハ内務部長、警務部長ハ警察部長ヲ以テ之ニ充テ各部内ノ事務ヲ處理統督セシム

第五條 總務部ニ左ノ五係ヲ置ク

- 一 庶務係
- 二 御旅館係
- 三 奉迎送係
- 四 土木係
- 五 會計係

第六條 警務部ニ左ノ三係ヲ置ク

- 一 警衛係
- 二 保安係
- 三 衛生係

第七條 各係ニ係長ヲ置キ係内ノ事務ヲ掌理セシム

第八條 各係ノ分掌事項左ノ如シ

總務部

庶務係

- 一 文書ノ收受發送並ニ電話ニ關スル事項
- 一 獻納品ニ關スル事項
- 一 御門鑑ニ關スル事項
- 一 古器物陳列ニ關スル事項
- 一 御慰ニ關スル事項
- 一 高齢者ニ關スル事項
- 一 御手植ニ關スル事項
- 一 豫算ニ關スル事項
- 一 事務所ノ設備ニ關スル事項
- 一 天氣豫報ニ關スル事項
- 一 其他他部係ノ主管ニ屬セサル事項

一七三

御旅館係

- 一 拜謁ニ關スル事項
 - 一 奉拜ニ關スル事項
 - 一 御旅館並ニ旅舎ニ關スル事項
 - 一 賓客接待ニ關スル事項
 - 一 御立退所ニ關スル事項
- 奉迎送係

奉迎送ニ關スル事項

- 一 沿道市街地掃除裝飾及國旗ニ關スル事項
- 一 御少憩所並ニ御臨場箇所ニ關スル事項
- 一 御代拜並ニ御使者ニ關スル事項
- 一 學校生徒並ニ縣立學校ニ關スル事項
- 一 御發著御出門等時刻通報ノ件
- 一 御少憩所ニ於ケル奉拜ニ關スル事項

土木係

- 一 道路橋梁修繕ニ關スル事項
 - 一 御旅館御少憩所ノ建築修繕ニ關スル事項
 - 一 電話電燈ノ架設ニ關スル事項
- 會計係

- 一 物品調達ニ關スル事項
- 一 會計ニ關スル事項

警務部

警衛係

- 一 警衛ニ關スル事項
- 一 沿道人民及奉迎送場所ニ關スル事項
- 一 奉迎送人心得ニ關スル事項
- 一 消防及水防ニ關スル事項
- 一 煙火ニ關スル事項

保安係

- 一 交通ニ關スル事項
- 一 運輸ニ關スル事項
- 一 警察ニ屬スル通信ニ關スル事項
- 一 部中他係ノ事務ニ屬セサル事項

衛生係

- 一 井戸御用水竝ニ御用牛乳ニ關スル事項
- 一 消毒及清潔ニ關スル事項
- 一 救護ニ關スル事項
- 一 健康調ニ關スル事項
- 一 其他衛生ニ關スル事項

第九條 處務順序及代決等ニ關スル事項ニシテ別ニ規定セサルモノハ凡テ本廳規定ヲ準用ス

文書取扱ニ關スル事項

行啓事務委員中文書收受發送擔任者二名ヲ置キ御用書竝ニ電信ノ收受發送ハ勿論其他行啓ニ關スル

一切ノ事件ハ勉メテ正確敏活ニ處理セシムルノ趣旨ヲ以テ左記簿冊ヲ備置キ收受セシ御用封書竝ニ電信及發送ノ爲メ供奉員ヨリ送致ヲ受ケタル御用封書竝ニ電信ハ其都度當該簿冊ニ登錄シ其收受セシモノハ直ニ消毒ノ上供奉員へ提出シ又發送ノ爲メ送致ヲ受ケタルモノハ直チニ郵便局派出所へ回付シ尙其他行啓ニ關スル一般ノ事件ニ付テモ當該文書件名簿ニ依リ夫夫擔當主任へ交付シ何レモ遲滞ナキヲ圖レリ其取扱事件ノ概數ヲ擧グレハ左ノ如シ

- 一 御用封書竝ニ電信收受發送簿
- 一 縣廳文書件名簿
- 一 縣廳封書發送簿
- 一 郵便切手受拂簿
- 一 御用封書竝ニ電信收受取扱數 六十五件
- 一 御用封書竝ニ電信發送取扱數 三十三件
- 一 行啓事務取扱數 五百六十七件

御門鑑

御旅館ニ出入スル者ハ宮内省ノ規定ニ依リ御門鑑ヲ要スルヲ以テ縣事務所ニ於テ之ヲ取扱フコトハ

シ其資格氏名ヲ記シタル名刺ヲ差出サシメ調査ノ上交付セリ其交付總數ハ二百十六枚ナリ
新聞

御旅館ニ提出シタル新聞ハ御著五日以前發行ノ分ヨリ御出發當日迄ニ著シタル東京日日新聞、時事新報、國民新聞、大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、九州日日新聞、鹿兒島新聞、日州、宮崎新聞ノ九種ニシテ日州、宮崎ノ二新聞ハ毎日五部ツ、其他ハ各三部ツ、トシ其都度消毒ヲ行ヒ東宮職係員ニ送達セリ

行啓事務員

行啓事務係員

總務部長

事務官 梯 沼竹雄

庶務係

係長 技師 渡邊 豊

農業技師 望月 關馬

屬 成合 徳次

屬 津江 爲恭

技師 小島 浩

屬 桑原 節次

屬 木内勝太郎
雇 鈴木喜代次郎

屬 塚本常盤
雇 黒木晴景

御旅館係

係長 事務官 三橋得三

屬 青木 勝

屬 島田孫三

技師 大村八十八

技師 石川若藏

屬 佐伯宗吉郎

屬 長友貞之

屬 土橋次郎吉

技師 河野徳藏

屬 谷口徳三郎

雇 長倉孚祐

雇 松田秀太郎

雇 佐伯悦藏

雇 佐野貞男

雇 長友清市

奉迎送係

係長 事務官 三橋得三

技師 三田政五郎

技師 平野篤夫

農業技師 有川哲二

林業技師 占部猪三郎

屬 大野 正太

屬 永友 武雄

屬 富山 義連

視學兼屬 小山 季郎

視學 石 神徳藏

屬 曾小川 久通

雇 平山 種二

土木係

係長 技師 保科圭三郎

屬 小畑 金次郎

技手 密尾 成一

屬 猪瀬 辨吾

技手 横山 良定

土工手 大川 熊治

土工手 山下 熊治

土工手 江島 清

雇 谷山 清行

屬 郡司 壽吉

技手 西山 半助

屬 岩崎 道公

技手 長友 安武

技手 川崎 久三郎

土工手 原 小十郎

土工手 中村 棟太郎

土工手 草野 力太郎

雇 三森 保也

會計係

係長 事務官 三橋 得三

技師 淺井 熊作

屬 小野原 弘

屬 横山 利助

屬 中山 信太郎

屬 河上 孫之丞

屬 中島 肇

技師 齋藤 久米四郎

水産試驗場技師 中村 平八

屬 木脇 隆平

屬 井上 允

屬 齋藤 太一

屬 日高 進

雇 圖師 文夫

事務官 夏秋 十郎

警察部長

警衛係

係長 警視 陣 軍吉

警部 中馬 太平次

警部 平川 民之助

警部 山田 清武

警部 年見 新平

警部 阿蘇 谷彦一

警部 山下 兼三

警部 平原 常次

警部 上之原壽吉

警部 乙森仲介

警部 植松重明

保安係

係長 警部 有川定一

警部 長山友助

警部 千葉卯市

警部 岩松繁夫

衛生係

係長 警部 大山綱治

警部 萩原保太郎

技手 植松政次郎

技手 緒方徳太郎

衛生技士 中元寺長風

警部 石川光彌

警部 若松悌二

警部 中間茂吉

警部 吉永熙

臨時宮崎縣會及行啓諸費

臨時縣會ハ七月二十五日ヲ以テ招集セラレタリ議案ノ内容ハ凡テ行啓ニ關係スルヲ以テ各員最モ慎重

ニ審議ヲ盡シ二十七日ニ至リ滿場一致拍手ノ裏ニ一點ノ修正ナク讀會省略一審議ヲ以テ確定セリ今議事ノ概要及豫算等ヲ舉クレハ左ノ如シ

議事概要

七月二十五日午前十時十分開會

出席議員

一番 佐藤毅

三番 田尻藤四郎

四番 鈴木文藏

五番 堀興義

參事會員六番 益山角之進

七番 長友武

八番 田村義雄

參事會員十番 磯貝大二郎

十一番 矢野力治

十二番 若林駒之輔

十四番 申間福藏

十五番 安井徹

參事會員十六番 佐藤平次郎

十七番 吉川正義

十八番 平島直正

參事會員十九番 瀬戸口長通

參事會員二十一番 新穂千秋

二十二番 河野通

- 二十三番 青木 昱一
- 二十四番 税田 義弘
- 二十五番 柏田 治作
- 二十六番 郡司 萬三郎
- 參事會員二十七番 菊池 武明
- 二十八番 土持 厚
- 二十九番 田中 友連
- 三十番 谷 五兵衛

午前十時十分永井知事ハ參與員ヲ隨ヘ開會式ヲ舉ケ述ヘテ曰ク諸君今日ヲ以テ臨時縣會ヲ招集シタリ
 今回提出ノ事項ハ本年度歲入歲出ノ追加豫算ニシテ本年秋冬ノ候畏クモ 皇太子殿下行啓ノ御内意アリ
 リ御承知ノ如ク主事ノ下檢分モアリタル次第ニテ此豫算ハ右行啓ニ關スル費用ナリ今ヤ宮崎宮御造營
 ハ著著竣成ニ近ツキ又縣共進會教育品展覽會等モ準備中ニ屬シ且明治十六年本縣再置以來茲ニ二十五
 年ナリ此記念スヘキ年ニ 皇太子殿下行啓ノ事アルハ誠ニ難有キ次第ナリ而シテ過般山陰道ノ 行啓
 トハ事體異ナリ今回ハ御見學ノ爲ナレハ萬事簡約ニセヨトノ御思召ナル由拜承シタルヲ以テ此旨意ニ
 副フヤウニ豫算ヲ組ミタルナリ而シテ御通過道路ハ短シト雖モ修繕ヲ要スル箇所少カラス又御滯在中
 各所ノ御視察モアラセラル、コト、思フ故學校等夫夫相當修理ヲ要スヘキ所アリ右ノ次第ニ付諸君ハ
 誠意ヲ以テ慎重審査ノ上至當ノ決議アランコトヲ望ム本日開會ニ當リ茲ニ一言スト
 次ニ議長山下虎雄缺席ニ付副議長土持厚答辭ヲ述ヘテ曰ク本日ヲ以テ臨時縣會ヲ會開サル、ニ方リ懇

ロニ其主旨ヲ説明セラレシ段謹ンテ承知セリ議案ニ就テハ慎重審議ノ上答申スル處アルヘシト
 右了リテ各員著席議長ノ報告アリテ散會二十六日ハ慎重ニ議案ヲ調査スル爲メ休會
 二十七日午前十一時半開會直ニ經常費全體ヲ議題トス十二番若林議員ハ贊成ノ理由ヲ述ヘテ曰ク此度
 臨時縣會ニ附議ノ提案ニ付テハ昨日調査會ヲ開キ知事閣下御列席懇切叮嚀ナル説明ヲ受ケ提案ノ真相
 ヲ知ルヲ得タリ謹ンテ考フルニ支出ノ大部分ハ今秋 皇太子殿下行啓ニツキ奉迎送ノ爲メニ要スル費
 用ナリ此榮譽アル議案ヲ議スルハ一生ノ光榮トスル所縣民モ亦喜ンテ負擔スヘキコトヲ信ス唯憾ムラ
 グハ提案ノ規模小ニシテ消極的ナルモノ、如ク縣民ノ意ヲ滿タス能ハサルナキカ奉送迎ニ就キ或ハ不
 都合ヲ來スコトナキカ深ク恐ル、處ナリ然レトモ主事ノ下檢分モアリ殊ニ無益ノ費用ヲ減シ簡約ニ從
 フヘキ 殿下ノ御思召アリ且又信任スル理事者ハ此際十分ノ責任ヲ以テ萬事ニ處セラルヘキヲ信シテ
 疑ハサル所ナルカ故ニ本員ハ一點ノ修正ナク直ニ原案ニ贊成スルモノナリ各員ニ於テモ誠心誠意ヲ以
 テ滿場一致本案ヲ可決セラレンコトヲ望ムト
 各員之ニ和シテ可決シ次テ歲入歲出一ノ異議ナク直ニ原案ニ可決確定シ一同起立拍手ヲナシ敬意ヲ表
 ス於是無事閉會式ヲ舉ケ永井知事左ノ式辭ヲ述フ

諸君今回提出シタル追加豫算議案ハ本日ヲ以テ全部議了シ茲ニ閉會ノ式ヲ舉グルニ至レリ思フニ議

案其モノハ簡單ナレトモ事皆行啓ノ重大ナルモノニ係ル諸君克ク其意ヲ諒シ慎重ニ審査ヲ遂ケ滿場一致ヲ以テ速ニ議決セラレタルハ本官ノ深ク満足スル所ナリ決議ノ執行ニ就テハ萬遺算ナカランコトヲ期ス玆ニ一言シテ閉會ノ辭ヲ述フ尙終ニ臨ンテ諸君連日ノ勞ヲ謝ス

次ニ副議長土持厚啓辭ヲ述ヘテ曰ク今回ノ提案ハ專ラ 皇太子殿下行啓ノ事ニ關セリ玆ニ誠心誠意謹ンテ原案ニ賛成セリ冀クハ設備萬般遺算ナカランコトヲ尙本年ハ規畫經營事項頗ル多端炎暑亦漸ク加ハラントス玆ニ閣下ノ健康ヲ祈ルト

明治四十年年度豫算追加

歳入

經常部

第八款 國庫下渡金

金九百六十三圓

第一項 警察費下渡金

金八百六十九圓

第二項 傳染病豫防費補助金

金九十四圓

第九款 雜收入

金百圓

第五項 物品賣拂代

金百圓

經常部合計金千六十三圓

臨時部

第一款 繰越金

金一萬千二百二十四圓七十八錢

第一項 前年度繰越金

金一萬千二百二十四圓七十八錢

第三款 町村分賦額

金二萬八十八圓二十二錢

第一項 町村分賦額

金二萬八十八圓二十二錢

臨時部合計金三萬千二百十三圓

歳入總計金三萬二千二百七十六圓

歳出

經常部

第一款 警察費

金三千八百六十六圓

第一項 俸給及諸給

金二千三百十三圓

第二項 應費

金千五十三圓

第三項	機密費	金五百圓
第三款	土木費	金六千七百十三圓
第一項	道路橋梁費	金六千六百二十三圓
第五項	雜費	金九十圓
第四款	縣會議諸費	金三千八百六十四圓
第一項	縣會議諸費	金三千八百六十四圓
第五款	衛生及病院費	金五百六十四圓
第一項	衛生諸費	金五百六十四圓
第六款	教育費	金二千百三十七圓
第一項	師範學校費	金三百六十六圓
第二項	宮崎中學校費	金七百六十四圓
第五項	高等女學校費	金五百二十八圓
第六項	農學校費	金四百七十九圓
第八款	郡役所費	金四百三十四圓

第二項	俸給及諸給	金二百九十四圓
第二項	廳費	金百四十圓
第十三款	縣廳舍修繕費	金四千三百五十二圓
第一項	修繕費	金四千三百五十二圓

經常部合計金二萬千九百三十圓

臨時部

第一款	警察廳舍建築費	金千三百五十圓
第一項	建築費	金千三百五十圓
第二款	土木費	金八百二十圓
第一項	道路橋梁費	金七百二十圓
第三項	港灣費	金百圓
第五款	教育費	金七百七十八圓
第一項	師範學校費	金二百十五圓
第二項	宮崎中學校費	金三十圓

- 第五項 高等女學校費 金三十圓
- 第六項 農學校費 金五百三圓
- 第八款 勸業補助費 金七千圓
- 第一項 勸業補助費 金七千圓
- 第十三款 縣廳舍建築費 金三百九十八圓
- 第一項 建築費 金三百九十八圓
- 臨時部合計金一萬三百四十六圓
- 歲出總計金三萬二千二百七十六圓
- 尋テ九月二十一日縣參事會ニ附議シ勸業補助費二千圓縣廳舍修繕費三百九十一圓及豫備費二千圓等追加ヲナシ又十一月二十七日日州銀行ヨリ行啓記念誌調製費トシテ金千二百圓ノ寄附アリ之カ收支ノ豫算ヲ議決セリ

行啓記念事業一斑

皇太子殿下ノ行啓ハ千載ノ盛事ナリ之ヲ一時ノ儀禮ニ止メス永ク後世ニ記念シテ盛儀ヲ欽仰シ併セテ

奉公ノ感念ヲ涵養センコトヲ圖リ或ハ植林ノ經營ニ或ハ道路ノ開鑿ニ或ハ耕地ノ整理ニ或ハ青年風紀ノ改善ニ各其事業ノ改良發達ヲ計畫スルモノ十九件ノ多キニ及ヘリ是等事業ノ完成ヲ告ケ所期ノ目的ヲ達スルニ至ラハ則チ獨各自ノ福利ヲ増進スルニ止マラス後世子孫長ヘニ行啓ノ餘光ニ浴スル頗ル大ナルモノアルヘシ後年之ニ依リテ惠澤ヲ享クル者又其由テ來ル處深ク且遠キヲ知ル可キナリ今各事項ノ梗概ヲ左ニ敘述ス

- 造林 百七十一
- 耕地整理 二
- 開田 二
- 溜池設置 一
- 道路改修 十八
- 橋梁架設 五
- 信用組合ノ設立 五
- 部落有財産ノ統一 一
- 水路ノ開鑿 三

勤儉貯蓄組合ノ設立	二
青年團體ノ設立	十六
師範學校記念文庫ノ設立	一
小學校溫舊會ノ設置	一
小學校園ノ設置	三
小學校校門ノ設置	一
小學校養魚池ノ設置	一
小學校圖書縱覽室ノ設置	一
耆老會ノ設立	一
農談會ノ設立	一

造林

造林ハ本縣ニ恰適スルヲ以テ從來之カ獎勵ニ努ムル所アリ今回ノ行啓記念事業中亦最も多キヲ占メ縣郡町村以下個人ニ至ルマテ之カ計畫ヲナシ其總計二百二十箇所段別四百七十六町餘步樹數百六十一萬

七千餘本ノ多キニ達シタリ而シテ其種苗ノ中百四十九萬三千餘本ハ縣設苗圃ニ於テ養成セルモノヲ無代配付シ多クハ御著艦ノ當日ヨリ御發艦ノ日マテノ間ニ吏民若ハ教員生徒等共同之ヲ栽植シ其管理方法等ニ付テハ特別ナル注意ヲ以テ愛育保護ヲ加ヘ確實ニ豫期ノ目的ヲ達セントス且ツ其目的ハ概シテ其收益ヲ以テ團體ノ基礎ヲ鞏固ニスルニアレトモ又學童ノ愛林思想ヲ涵養スルノ一端トナシ若ハ魚族群集ノ用ニ供スルモノアリ殊ニ御上陸地點タル宮崎郡青島村内海ニ於テハ港内ヨリ一目觀望シ得ヘキ大師山頂段別一町五段九畝一步ヲ畫シ苗木ハ縣ヨリ無代讓與ヲ受ケ四十年十月二十七日村民總出ニテ樟木四千七百八十本ノ栽植ヲ了シ其收益ハ之ヲ基本財産トナシ育英ノ資ニ供セントス今造林保護規程ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ

東臼杵郡岡富村 東宮殿下行啓記念林造成並ニ保護規程

- 第一條 東臼杵郡岡富村大字岡富字上柚木六百五十番山林段別五段歩ヲ 東宮殿下行啓記念林トス
- 第二條 植栽スヘキ樹種ハ杉トシ距離五尺ノ正三角植栽トナシ杉二千四百九十四本トス
- 第三條 植樹期ハ行啓當日トス
- 第四條 保護ハ五箇年間ハ年一回雜草木ノ刈拂ヲナシ其後ハ隔年ニ蔓草ヲ切拂ヒ植樹ノ朽枯野火ノ侵入等ハ附近部落ニ於テ常ニ監視セシメ村長ハ毎年一回以上植樹成長ノ模様ヲ調査スルモノトス

第五條 植樹成長ノ模様ハ植樹臺帳ニ詳記スルモノトス

第六條 植樹間伐ハ十五年ニ第一回爾後伐期マテ二回トシ伐期ハ百年トナス其收益ハ總テ記念基本金トナスモノトス

第七條 記念造林ニ要スル經費ハ基本財産造成費ヨリ支出スルモノトス

耕地整理、開田

北諸縣郡都城町字大王、岩脇、新田、園田、神田、切町、小牟田、橋折ノ八字ニ於ケル田段別三十九町八段三畝二十三歩及同郡庄内村字峰之川原外六字約五十町歩ノ田地ハ濕田ニシテ排水宜シキヲ得サルニ依リ行啓ヲ機トシ耕地整理ヲ爲シ尙都城町ニ於テハ右耕地整理ト共ニ同字内ニ於ケル畑段別四町四段十二歩ヲ併セテ開田ヲナセリ

東諸縣郡木脇村木脇青年團體ハ協力シテ字桑鶴排水溝ヲ開田セリ桑鶴排水溝ハ灣曲迂廻シテ不用敷地多キヨリ之ヲ直線ニ改鑿シ舊溝地ヲ埋立テ同時ニ附近ノ畑地ヲ合セテ一町歩ノ開田ヲナサントヲ圖リ四十一年一月事業ニ著手シ四十二年三月竣工セリ

溜池設置

東諸縣郡穆佐村大字小山田字迫下ニ於テハ用水ニ乏シク多年水田ノ灌溉ニ困難ナルモ經濟ノ事情ト人心ノ一致ヲ缺キタル等ノ爲メ容易ニ之ヲ救濟方法ヲ取ル能ハサリシカ行啓ニ當リ奮テ之ヲ實行スルコトニ決シ面積六百二十五坪ヲ畫シ夫役千八百七十五人ヲ使役シ溜池ヲ設クルコト、シ四十年十二月二日起工四十一年五月二十日竣工セリ

道路改修、橋梁架設

南那珂郡東郷村ヨリ同郡鵜戸村ニ通スル道路ハ十數年來開鑿ノ必要ヲ唱フレトモ工費巨額ニシテ未タ著手スル能ハサリシカ 皇太子殿下行啓ヲ好機トシ記念事業ヲ起スコトニ一決シ愈々工事ニ著手スルヤ村民協同晝夜之ニ從ヒ延長千九百八十四間工費六千四百三十七圓ヲ支出シ二箇月ニシテ行啓前竣工ヲ告ケタリ

東諸縣郡倉岡村ニ於ケル道路ハ僅カニ一線路ニ過キス從來屢改修ノ議ヲ起セシモ未タ決スルニ至ラサリシカ偶々行啓ノ事アルニ當リ記念事業トシテ改修ノ議一決シ工費四千十五圓二十五錢二厘ヲ投シ

村内大字柳瀬ヲ起點トシ本莊村嵐田ニ通スル線路ヲ開鑿シ目下郡道ニ編入セラル、ニ至レリ
 西臼杵郡岩戸村大字岩戸笹ノ戸ヨリ大字山裏ニ通スル里道ニ當レル崎野橋ハ十數年前洪水ノ爲メ流失
 シ不便少カラサリシカ費用其他ノ事情ニ依リ復舊ノ運ヒニ至ラサリシニ 皇太子殿下行啓ニ當リ有志
 ノ發企ハ直ニ成立シ四十二年二月二十日竣工ヲ告ケタリ
 尙右ノ外工事ヲ企テ竣成シタルモノ左ノ如シ

郡町村名	道路改修	橋梁架設
宮崎郡廣瀬村	一箇所	一箇所
宮崎郡大宮村	一	一
南那珂郡北郷村	四	一
南那珂郡本城村	二	一
北諸縣郡高崎村	一	一
東諸縣郡高岡村	一	一
東諸縣郡倉岡村	一	一
東臼杵郡北方村	二	一

東臼杵郡門川村
 西臼杵郡諸塚村

四

一

信用組合ノ設立

信用組合ヲ組織シ共同販賣ヲナシ共同ノ利益ヲ増進センカ爲メ宮崎郡瓜生野村大字大瀬町及大字瓜生
 野ニ各一箇所南那珂郡香田村ニ二箇所東諸縣郡八代村ニ一箇所行啓記念トシテ新ニ組織シタリ殊ニ八
 代村ニ於ケル組合ハ行啓記念有限責任八代購買組合ト名ツケ組合員三百五十二名出資總額五千八百四
 十圓ニシテ村民ノ信用ヲ博シ四十二年度取扱金高七千圓以上ニ達セリ

部落有財産ノ統一

部落有財産ノ統一ヲ圖ルハ町村團體ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ナレトモ種種ノ事情纏綿容易ニ行レ難キ
 ヲ常トス然ルニ北諸縣郡中郷村ニ於テハ行啓ノ盛事ヲ機トシ斷然是等ノ事情ヲ排シテ部落有ニ屬スル
 大字安八有原野段別五十九町八段五畝歩大字豊滿有山林段別四町九段七畝歩及原野段別一段八畝二十
 三步合計六十五町九段五畝二十四歩ヲ學區有財産トナセリ

水路ノ開鑿

西臼杵郡岩井川村ハ用水路開鑿完備セハ容易ニ數多ノ良田ヲ得ヘキ場所頗多シ從來屢々之カ計畫ヲ爲シタレトモ水源若クハ線路等ニ付キ區區タル感情其間ニ横ハルアリ爲メニ之カ遂行ヲ見ルニ至ラス甚々遺憾トセシ處ナリシカ 皇太子殿下行啓アラセラル、ニ際シ機失フヘカラストナシ村民大ニ奮起シ開鑿ヲ實行スルコトニ決シ左ノ通り著手スルニ至レリ

團體名	人員	灌漑面積	竣工期限
大瀬組合	八人	二町歩	二年
小崎組合	八人	五町歩	三年
	二十人	十町歩	三年

勤儉貯蓄組合ノ設立

勤苦儉素獨立自營ヲ講スルハ一身一家ノ福利ヲ増進スルノミナラス亦實ニ社會經濟ノ發達ヲ助長スルノ要件タリ近時鼓舞勸奨ノ結果漸ク此ノ美風ヲ馴致スルニ至レリ今亦行啓ヲ記念シ村内ヲ舉ケテ勤儉

貯蓄組合ヲ組織シ之カ實行ヲ期スルモノハ宮崎郡廣瀬村ニシテ五戸乃至十戸ヲ一組トシ婦人貯金組合規約ヲ設ケ全村舉ケテ勤儉貯蓄ヲ勵行セントスルモノハ北諸縣郡三股村トス

青年團體ノ設立

行啓ヲ奉祝記念センカ爲メ風紀ノ改善勤儉貯蓄ノ實行學徳ノ修養農事ノ改良ヨリ漁獲法ノ研究漁具ノ改良等ヲ目的トシ青年團體ヲ組織シ規約ヲ結ビ互ニ切磋砥礪シテ郷閭ノ教化ニ裨補セントスルモノ亦少カラス就中東臼杵郡東海村青年會ニ於テハ支部夜學會ヲ設ケ學術ノ研究ヲナシ傍ラ適當ナル副業ノ實習科ヲ置キ之カ發達ヲ助長センカ爲メ村費ヨリ補助ヲ爲サントシ又西臼杵郡三ヶ所村ニ於テハ二三青年會ノ組織ナキニアラサレトモ何レモ規模狹少ナリシカ行啓記念ノ爲メ村内ニ通スル青年會ヲ組織シ會員既ニ二百六十一名ニ達シ 殿下御滯在中ナル天長ノ佳節ヲ以テ第一回總會ヲ開キ第二回ハ翌四十二年二月一日開催セリ今記念團體總數及規約ノ一例ヲ舉ケンニ左ノ如シ

宮崎郡住吉村	一
東臼杵郡岡富村	二
東臼杵郡東海村	八

東臼杵郡伊形村
 東臼杵郡北方村
 西臼杵郡三ヶ所村

三
 一
 一

東臼杵郡伊形村青年會支部赤水青年會規則

- 第一條 本會ハ赤水村ノ青年及有志者ヲ以テ組織シ村内ノ風俗ヲ改良シ青年相互ノ智徳ヲ磨キ時勢ノ進運ニ隨伴センコトヲ期ス
- 第二條 本會ハ 東宮殿下本縣ニ行啓仰セ出サレタル記念トシテ組織ス
- 第三條 本會ニ入會スルモノハ尋常科卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スルモノ年齢三十歳以下ノモノ及其他ノ有志者トス
- 第四條 本會ニ入會セシ青年ハ品行ヲ慎ミ本會ノ名譽ヲ汚サハル様深ク注意スヘシ
- 第五條 本會ハ伊形村青年會支部赤水青年會ト稱ス
- 第六條 本會ニ支部長一名幹事一名評議員二名ヲ置キ青年ノ監督及會務ヲ處理セシム但名譽職トシ任期ハ各一箇年再選スルモ妨ケナシ
- 第七條 本會ノ事業左ノ如シ

- 一 青年夜學會ヲ開キ學徳ヲ修養スルコト
 - 二 土地ノ風俗ヲ改良スルコト
 - 三 村内小學校ト家庭トノ連絡ヲ圖リ普通教育ノ實行ヲ補佐スルコト
 - 四 土地ノ開拓植林事業又ハ副産業ヲ興シ漁獲法ノ研究並ニ漁具ノ改良ヲナシ以テ實業ノ趣味ヲ養フコト
- 第八條 入退會ノ手續ハ總テ伊形村青年會會則ニ從フヘキモノトス
- 第九條 本會員ニシテ青年會ノ體面ヲ汚シ以後改悛ノ見込ミナキモノハ青年會決議ヲ經除名スルコトアルヘシ
- 第十條 本會員ハ夜學會開設ニ際シ猥リニ闕席ヲ許サス止ムヲ得サル事故アルトキハ支部長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十一條 會員ニシテ夜學會ニ出席スルモノハ凡テ教師ノ指揮命令ニ從フヘキ義務アルモノトス
- 第十二條 本會ヲ維持スル費用ハ會員ノ自辨タルヘシ
- 第十三條 本會ニハ會員名簿其他費用收支ニ關スル帳簿並ニ本會記録ヲ備ヘ置キ隨時加除ス
- 第十四條 夜學會ノ教科目ハ大凡左ノ三科目トス

第十五條 夜學會ヲ開設スルトキハ支部長ヨリ各會員ニ通知ス

第十六條 夜學ノ時間ハ二時間乃至三時間トシ時期ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第十七條 非常ノ時變其他必要ト認ムルトキハ支部長ハ會員ヲ招集スルコトアルヘシ

第十八條 前條ニ依リ支部長ノ招集ヲ受ケタルトキハ事ノ如何ヲ問ハス直ニ指定場所ニ集合シ指揮ヲ待ツヘシ但故ナク其命ニ從ハサルモノハ會議ノ上處分スルコトアルヘシ

第十九條 本會員及他ノモノニシテ惡戯ヲナシ他人ニ妨害ヲ加ヘタルモノ及加ヘントセシモノヲ認メタルトキハ之ヲ制スルト同時ニ本會ニ申出ツヘシ

第二十條 本會則ハ明治四十年九月二十三日ヨリ施行ス

師範學校記念文庫ノ設立

師範學校ニ於テハ行啓記念文庫ノ設立ヲ計畫シ明治四十一年一月ヨリ貯金ヲ實行シ相當ノ額ニ達スルヲ待チ其目的ヲ達セントス其趣意書及規則ハ左ノ如シ

明治四十年晚秋本縣有志多年ノ熱誠ニヨリテ官幣大社宮崎宮ノ造營新ニ成リ奉告大祭執行ノ舉アリ此時ニ當リ畏クモ 皇太子殿下ニハ遠路風浪ノ難山河ノ峻ヲモ厭ハセ給ハス我カ日向ニ鶴駕ヲ控ケサセ給フ五十萬ノ蒼生茲ニ 殿下ヲ拜スルノ光榮ヲ辱フシ歡喜感泣セサル者ナシ特ニ我校ハ十一月一日ヲ以テ 殿下ノ行啓ヲ仰キ平素教養ノ實況ヲ台覽ニ供スルノ榮ヲ得タリ眞ニ是レ我校空前ノ盛事ニシテ又不朽ノ譽タリ焉ソ之ヲ百世ニ傳ヘ萬代ニ記念スルノ企ナクシテ可ナランヤ乃チ本校職員生徒相計リ月月應分ノ資ヲ積ミテ校内ニ記念文庫ヲ設立シ古今東西ノ圖書ヲ始メトシ教師ノ手ニ成レル參考品生徒ノ成績品其他本校ノ重要ナル記録圖書等ヲ藏シテ研學ノ資料ト爲サントス思フニ斯クノ如キ施設ハ獨リ歲月ヲ經テ益其光彩ヲ發揮スヘキ好箇ノ記念タルヘキノミナラス生命アリ歴史アル學校ノ貴重ナル事業ニシテ之ニヨリテ學生ハ一層深遠該博ナル知識ノ研修ヲナス事ヲ得ヘク本校ハ一層偉大ナル歴史的感化力ヲ備フルニ至ラン然リト雖モコノ企タルト其效果ノ甚大ナル者アルタケ其經費モ亦輕少ニテ足ルコト能ハス予等ノ微力豈一朝一夕ニシテ能ク之ヲ完成シ得ル所ナランヤサレハ吾ニ我等カ協心戮力以テ之カ經營ニ當ルヘキノミナラス我等カ後繼者タル者亦宜シク滿腔ノ熱誠ヲ以テ其完成ニ力メンコトヲ望ムカクテ此事業ハ千古ニソノ光輝ヲ放ツヘキナリ若シ夫レ縣費ヲ以テ此事業ヲ助ケ一層ソノ完成ヲ速ナラシムルノ氣運ヲ迎フルヲ得ハ予等ノ本懷何者カ之ニ加ヘン

皇太子殿下行啓記念文庫設立貯金會規則

- 第一條 本會ハ本校職員及生徒ヲ以テ組織ス
- 第二條 職員ハ毎月金五錢以上生徒ハ毎月金一錢以上其月二十一日マテニ出金スルモノトス
- 第三條 本會ノ貯金ハ會員五名以上ノ發議ニヨリ職員生徒各其現在員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非レハ支出スルコトヲ得ス
- 第四條 本會ノ事務ハ本校校長之ヲ總轄シ本校校友會圖書部長及理事協議ノ上之ヲ處理スルモノトス

第五條 本會ハ毎年十一月總會ヲ開キ會計其他事務ノ報告ヲ爲スヘシ

小學校溫舊會ノ設置

行啓ノ記念トシテ小學校ニ溫舊會ナルモノヲ設ケ同小學校ニ學ヒタルモノヲ以テ組織シ舊交ヲ溫メ知識ヲ交換センコトヲ圖ラントスルモノハ東諸縣郡高岡高等小學校ニシテ亦以テ行啓ノ餘慶トス

小學校園ノ設置

東臼杵郡延岡女子高等小學校ニ於テハ運動場内ニ菜園ヲ設ケ高等科兒童各學年一區ヲ分擔シ受持教員之カ指揮監督ヲナシ兒童ニ栽培ノ趣味ヲ與ヘ同郡東海高等小學校及恆富高等小學校ニテハ植物園ヲ運動場ノ一隅ニ設ケ何レモ行啓記念トシ以テ學校園本來ノ目的ヲ達シ併セテ忠良ノ感念ヲ涵養センコトヲ圖レリ

小學校校門ノ設置

東臼杵郡恆富高等小學校ニ於テハ久シク校門ノ改築ヲ果タス能ハサリシカ今回行啓記念トシテ之ヲ改造シ「行啓記念」ノ文字ヲ刻シ朝夕此門ヲ出入スル兒童ヲシテ毎ニ 殿下ノ高德ヲ仰キ之ニ依リテ奉公ノ感念ヲ涵養センコトヲ期セリ

小學校養魚池ノ設置

東臼杵郡北方村三權尋常小學校ニ於テハ行啓記念事業トシテ學校敷地内ニ養魚池ヲ設ケ之ヨリ生スル利益ハ學校基本財産ニ編入セントシ所要ノ費金ハ通學區域内ノ人民ヨリ寄附シ明治四十年十一月工事著手翌年二月竣工同年四月鯉兒五百尾ヲ放養セリ

小學校圖書縱覽室ノ設置

東臼杵郡延岡^{高等}小學校ニ於テハ行啓奉祝記念ノ爲メ圖書縱覽室ヲ設ケ趣味アリ且ツ研究ノ參考トナルヘキ圖書ヲ備ヘ一般兒童ニ對シ好學讀書ノ便利ヲ與ヘンコトヲ圖リ明治四十年十一月一日ヲ以テ開設セリ既ニ購入セン書籍ハ兩校ヲ合セ十二種四十一冊ニ及ヒ又篤志家ノ寄附ヲ設ケタルモノ三十種二百冊ノ多キニ達シタリ

耆老會ノ設立

西諸縣郡小林村東方尋常小學校ニ於テハ行啓記念トシテ耆老會ヲ組織シ明治四十年十一月二十四日郡長、村長代理者及學區内有志者參列發會式ヲ舉ケタリ當日招待ニ應シ出席セル高齢者ハ百二十五名ノ多キニ達シ之ヲ年齡別ニスレハ八十歳以上七名、七十歳以上三十八名、六十歳以上八十名ニシテ學校兒童ノ成績品、機械標本、書畫等ヲ縱覽ニ供シ或ハ兒童ニ讀方、話シ方、唱歌、遊戲、體操、運動等ヲ演セシメ老人ノ接待慰藉及説明等ニ付テハ一切兒童ヲシテ之ニ當ラシメ老人ニ慰安ヲ與フルト共ニ敬老ノ思念ヲ養成センコトヲ期シ爾來毎年一回總會ヲ開キ且ツ幻燈會通俗談話會等ヲ開催セントス

農談會ノ設立

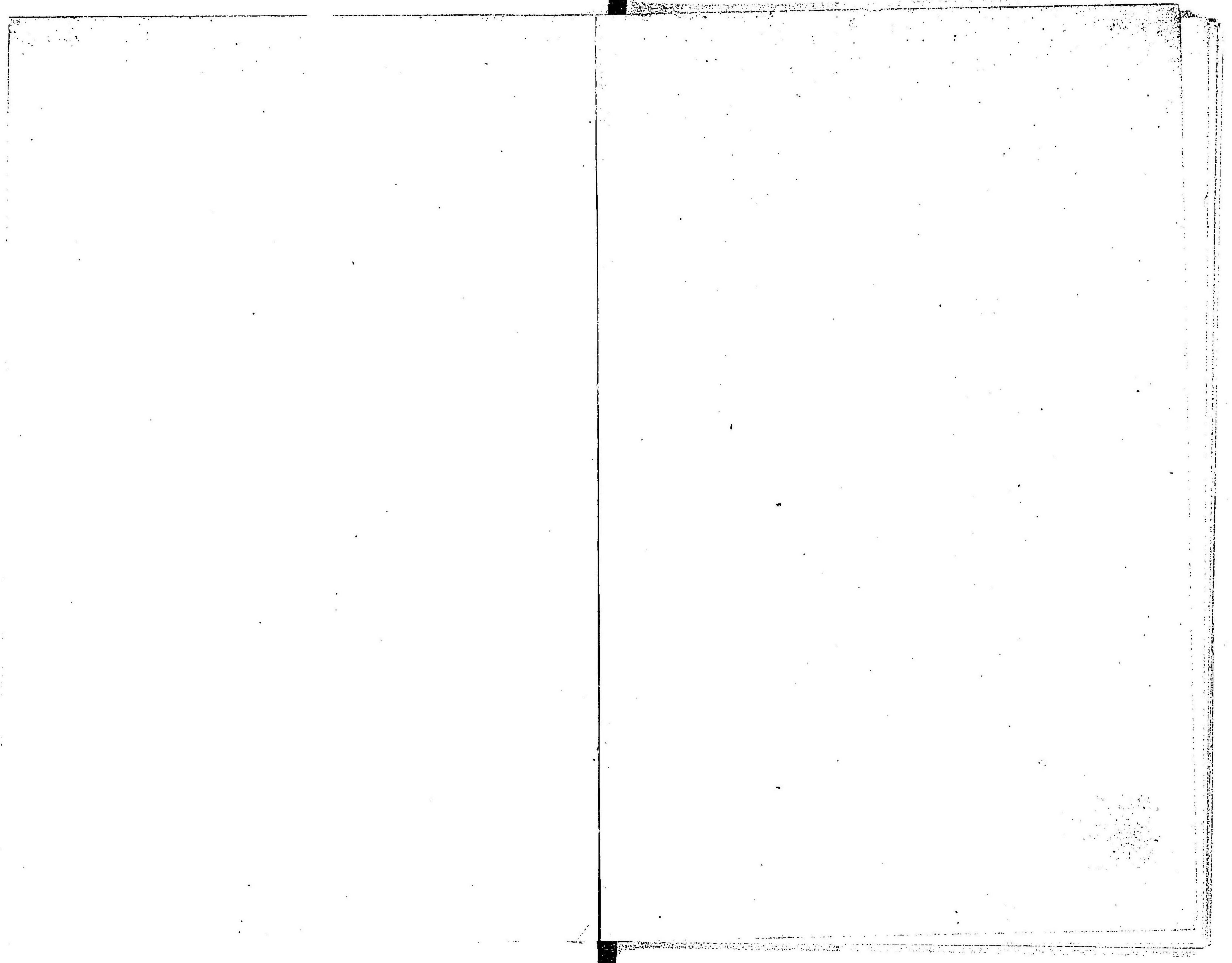
東諸縣郡倉岡村ニ於テハ行啓記念事業ノ一トシテ一般農業者ニ對シ農業上ノ知識ヲ與ヘンカ爲メ農談會ヲ設ケ毎年秋季開催スルコト、セリ

明治四十五年三月三十一日印刷
明治四十五年六月二十五日發行

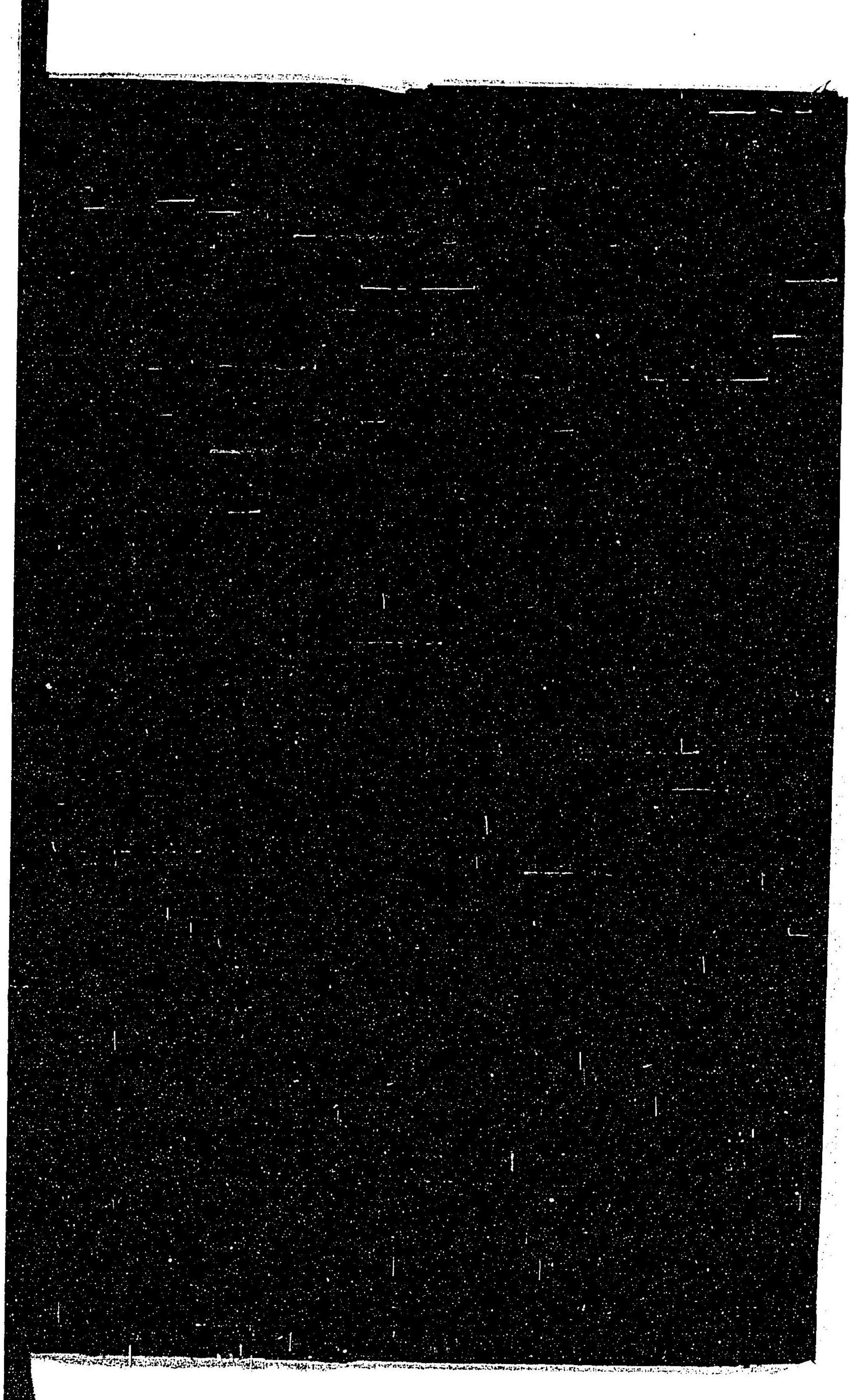
宮崎縣廳

東京市日本橋區數寄屋町一番地

印刷者 田山宗堯



349
47





006297-000-9

349-47

宮崎県行啓誌

宮崎県庁／編

M45

ACJ-0423



